

目録の設定

メタデータ環境を設定するには、次のいずれかの役職が必要です。

- 目録管理者

この役職は、**拡張パック**を使用して**MARC**ベースのプロファイルを編集するために必要です。コミュニティゾーンレベルで **拡張パック**ファイルを追加、削除、および提供するには、この役職に割り当てられた特別な**権限**が必要となります。拡張パックファイルを操作できない場合は、カスタマーサポートに連絡してこれらの**権限**を割り当ててください。)

- 統括システム管理者

このセクションでは、メタデータ環境の設定について説明します。[メタデータ設定リスト] ページのアクティブプロファイルセクションで設定されたプロファイルは、MDエディタで作業するときに使用する**目録環境**を定義します。[メタデータ設定リスト] ページで設定できる書誌プロファイルは、Ex Librisによって機関に設定されたアクティブレジストリ/レジストリセットによって決定されます。以下のアクティブレジストリをAlma用に設定できます。

- MARC 21
- UNIMARC
- KORMARC
- CNMARC
- Dublin Core
- MODS
- ETD
- DC Application Profiles

このセクションでは、MDエディタの以下の特性の設定について説明します。

- メタデータエディタに表示されるメタデータフィールドとサブフィールド、およびそれらが繰り返し可能な場合
- サブフィールドが語彙制御を使用している場合
- 正規化プロセス
- 検証プロセス

[メタデータ設定リスト] ページ ([設定メニュー > リソース > 目録 > メタデータ設定]) で提供されるオプションからメタデータフィールドを設定します。

Metadata Configuration List Back

Active Profiles ▼

Profile	Family	Type
1 CNMARC Bibliographic	CNMARC	Bibliographic
2 GND Authority	MARC21	Authority
3 KORMARC Bibliographic	MARC21	Bibliographic
4 MARC21 Authority	MARC21	Authority
5 MARC21 Bibliographic	MARC21	Bibliographic
6 MARC21 Holding	MARC21	Holding
7 MODS	MODS	Bibliographic
8 Qualified Dublin Core	DCMI	Bibliographic
9 UNIMARC Authority	UNIMARC	Authority
1... UNIMARC Bibliographic	UNIMARC	Bibliographic
1... DC Application Profile 1	DCMI	Bibliographic
1... ETD	DCMI	Bibliographic
1... DC Application Profile 2	DCMI	Bibliographic

メタデータ設定リストページ

Almaのグローバルおよびローカル**典拠**レコードに関連する追加情報については、[典拠レコードの操作](#)を参照してください。

〔メタデータ設定リスト〕ページには、機関に定義されているメタデータプロファイルのリスト、各プロファイルへのリンク、所属する**目録**ファミリー、およびメタデータプロファイルの種類（**典拠**、**書誌**、または**所蔵**）が表示されます。

メタデータプロファイルの詳細の表示

プロファイルの詳細ページには、フィールド、正規化プロセス、および**検証**プロセスを表示（およびカスタマイズ）するための次のタブがあります。

- 〔一般情報〕（DCアプリケーションプロファイルのみ）
- 〔フィールド〕
- 〔フォーム〕
- 〔正規化プロセス〕
- 〔**検証**プロセス〕
- 〔**検証**例外プロファイルリスト〕
- 〔その他の設定〕

メタデータプロファイルの詳細を表示するには

1. 〔メタデータ設定リスト〕ページ（〔設定メニュー>リソース>**目録**>メタデータ設定〕）で、表示するプロファイルのリンク（MARC 21書誌など）を選択します。〔プロファイルの詳細〕ページが表示されます。

Field	Force Form Editing	Description	Filtering Group	Updated On
1 001		CONTROL NUMBER	00X: Control Fields	09/05/2011
2 003		CONTROL NUMBER IDENTIFIER	00X: Control Fields	09/05/2011
3 005		DATE AND TIME OF LATEST TRANSACTION	00X: Control Fields	09/05/2011
4 006	<input type="checkbox"/>	FIXED-LENGTH DATA ELEMENTS-ADDITIONAL MATERIAL CHARACTERISTICS-GENERAL INFORMATION	00X: Control Fields	09/05/2011
5 007	<input type="checkbox"/>	PHYSICAL DESCRIPTION FIXED FIELD-GENERAL INFORMATION	00X: Control Fields	09/05/2011
6 008	<input type="checkbox"/>	FIXED-LENGTH DATA ELEMENTS-GENERAL INFORMATION	00X: Control Fields	09/05/2011
7 009		LOCAL CONTROL NUMBER	00X: Control Fields	06/06/2017
8 010		LIBRARY OF CONGRESS CONTROL NUMBER	01X-09X: Numbers and Code Fields	09/05/2011
9 013		PATENT CONTROL INFORMATION	01X-09X: Numbers and Code Fields	09/05/2011
10 015		NATIONAL BIBLIOGRAPHY NUMBER	01X-09X: Numbers and Code Fields	02/01/2015
11 016		NATIONAL BIBLIOGRAPHIC AGENCY CONTROL NUMBER	01X-09X: Numbers and Code Fields	09/05/2011
12 017		COPYRIGHT OR LEGAL DEPOSIT NUMBER	01X-09X: Numbers and Code Fields	09/05/2011
13 018		COPYRIGHT ARTICLE FEE CODE	01X-09X: Numbers and Code Fields	09/05/2011
14 020		INTERNATIONAL STANDARD BOOK NUMBER	01X-09X: Numbers and Code Fields	02/01/2015

MARC 21書誌プロファイル詳細ページ

- 表示するプロファイル詳細の行アクションリストで [表示] を選択します。 [フィールドの詳細] ページが表示されます。

MARC21 Bibliographic	
Family	MARC21
Type	Bibliographic
Usage	BIBL, MARC
Tag	001
Type	Fixed
Repeatable	No
Mandatory	No
Description	CONTROL NUMBER
Help URL	-

フィールド詳細ページ

プロファイルの詳細を編集する

プロファイルの詳細ページの次のタブで提供されるオプションを使用して、メタデータプロファイルの詳細を変更できます。

- [一般情報] (DCアプリケーションプロファイルのみ) - 詳細については、[DCアプリケーションプロファイル - 一般情報タブ](#)を参照してください。
- [フィールド] - [フィールドの編集](#)を参照してください。
- [フォーム] - [フォームの操作](#)を参照してください。
- [正規化プロセス] - [正規化プロセスの操作](#)を参照してください。
- [検証プロセス] - [検証プロセスの編集](#)を参照してください。
- [検証例外プロファイル] リスト - [検証例外プロファイルの操作](#)を参照してください。
- [その他の設定] - [その他の設定](#)を参照してください。

さらに、[拡張パック](#)を使用してメタデータプロファイルを変更できます。詳細については、[拡張パックを使用したMARCベースのプロファイルの編集](#)を参照してください。

フィールドの編集

特定のメタデータ設定プロファイルの〔プロファイルの詳細〕ページの〔フィールド〕タブから、以下の手順の説明に従って、メタデータプロファイルのフィールドを編集できます。編集可能なフィールドは、メタデータ設定リストページ（〔設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定〕）で選択したプロファイルリンク/タイプ（書誌、所蔵、典拠、または認定Dublin Core）によって決まります。

Note

典拠の推奨（F3）に使用されるフィールドのサブフィールドはカスタマイズできません。〔語彙制御の割り当て〕オプションは、そのサブフィールドを編集するために提供されていません（下の図を参照）。詳細については、[典拠レコードを書誌レコードにリンクする](#)セクションを参照してください。

Note

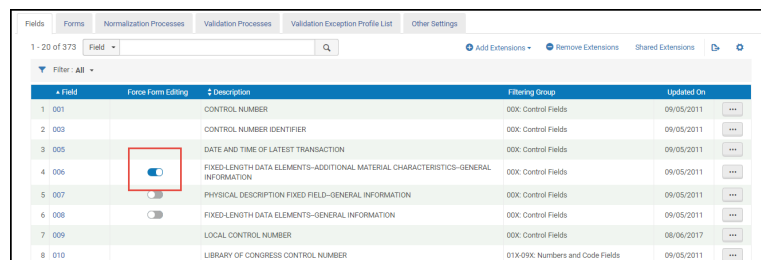
記号 -.;:/の動作については、顧客パラメータ `controlled_vocabulary_remove_punctuation` も参照してください（[その他の設定の構成（リソース管理）](#)を参照してください）。

フィールドを編集するには

Note

この手順では、書誌フィールドを編集する手順について説明します。手順は、所蔵、典拠、および認定Dublin Coreについても同様です。

- 〔メタデータ設定リスト〕ページ（〔設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定〕）で、編集するプロファイルのリンク（MARC 21書誌など）を選択します。〔プロファイルの詳細〕ページが表示されます。
- メタデータ・エディタで目録作成用のフォームが提供されている固定フィールドに対しては、フォームでの編集を強制を有効にすることで、目録作成時にフォームの使用を必須にできます。この機能がフィールドに対して有効になっている場合、メタデータ・エディタでは自由入力による目録作成はできません。



Field	Force Form Editing	Description	Filtering Group	Updated On
1 001		CONTROL NUMBER	00X Control Fields	09/05/2011
2 003		CONTROL NUMBER IDENTIFIER	00X Control Fields	09/05/2011
3 005		DATE AND TIME OF LATEST TRANSACTION	00X Control Fields	09/05/2011
4 006	<input checked="" type="checkbox"/>	FIXED-LENGTH DATA ELEMENTS-ADDITIONAL MATERIAL CHARACTERISTICS-GENERAL INFORMATION	00X Control Fields	09/05/2011
5 007	<input type="checkbox"/>	PHYSICAL DESCRIPTION FIXED FIELD-GENERAL INFORMATION	00X Control Fields	09/05/2011
6 008	<input type="checkbox"/>	FIXED-LENGTH DATA ELEMENTS-GENERAL INFORMATION	00X Control Fields	09/05/2011
7 009		LOCAL CONTROL NUMBER	00X Control Fields	08/06/2017
8 010		LIBRARY OF CONGRESS CONTROL NUMBER	01X09X Numbers and Code Fields	09/05/2011

フォーム編集設定スライダーを強制する

スライダーの操作については、[Almaユーザーインターフェイス](#)をご覧ください。

- 編集するフィールドの行アクションリストで〔カスタマイズ〕（または〔編集〕）を選択します。〔フィールドの詳細〕ページが表示されます。

フィールドの詳細ページのカスタマイズ (編集)

4. 要件に合わせて、次のフィールドオプション (異なる場合があります) を編集します。

- **[必須]** - **[はい]**または**[いいえ]**。
- **[説明]** - 参考用の詳細。
- **[ヘルプURL]** - ヘルプに使用できるURL。このURLが指すヘルプ情報は、MDエディタの**[情報]**タブに表示されます。このフィールドを空白のままにすると、デフォルトは米国議会図書館の目録基準情報になります。

ヘルプURLオプションに関連するMDエディタ情報タブ

- **[サブフィールド]** - サブフィールドごとに、**[はい]**または**[いいえ]**を選択して、サブフィールドが必須または繰り返し可能であることを示すことができます。
 - 特定の語彙制御を割り当てるサブフィールドの行アクションリストで、語彙の制御の割り当てを選択します。[新規制御語彙値の作成]セクションがある[プロファイルの詳細]ページが表示されます。

語彙制御の割り当て

- **〔語彙制御 (CV) の選択〕** ドロップダウンリストから制御する語彙を選択します。このリストのオプションは、[〔語彙制御レジストリの設定〕](#) で設定されます。選択した語彙制御の詳細が表示されます。この選択を保存するには **〔割り当て〕** を選択します。

便宜上、**〔新規語彙制御値の作成〕** セクションを使用して、制御する用語を追加できます。ここで追加する用語は、編集時のフィールドにのみ適用されます。これらの用語を別の異なるフィールドで使用する場合は、**〔語彙制御レジストリ〕** ([語彙制御レジストリの設定](#)を参照) を使用して、複数のフィールドで使用される語彙制御を作成します。

新規語彙制御値の作成 セクションで新しい語彙制御値を追加するには、コードと説明を入力して **〔追加〕** を選択します。用語の追加が終了したら、**〔割り当て〕** を選択します。

- **第1インジケータ** -**〔フィールドの詳細〕** ページの最初のインジケータセクションで必要な変更を加えます。
 - **第2インジケータ** -**〔フィールドの詳細〕** ページの最初のインジケータセクションで必要な変更を加えます。
5. 保存を選択します。フィールドの変更は、メタデータプロファイルに保存されます。
 6. **〔配置〕** を選択します。

プロファイルフィールドの詳細の復元

プロファイルの詳細をデフォルト値に復元できます。

デフォルトのプロファイルフィールドの詳細を復元するには

1. プロファイルの詳細ページのフィールドタブで、復元するプロファイルの詳細の行アクションリストで **〔アクション > 復元〕** を選択します。ローカルでカスタマイズされたプロファイルの変更は、フィールドのデフォルト値に復元されます。
2. **〔配置〕** を選択します。

拡張パックを使用したMARCベースのプロファイルの編集

メタデータプロファイル用の**拡張パック** (.xmlファイル) を使用すると、追加のフィールド、サブフィールド、インジケータ値、繰り返し/非繰り返し、必須/非必須の仕様およびURLを地域のニーズに対応するオンラインヘルプに合わせて、MARCベースの書誌、所蔵、および典拠プロファイルを適合させることができます。これには、MARC 21、UNIMARC、およびCNMARCプロファイルが含まれます (ただしDublin Coreは含まれません)。MARCプロファイル**拡張パック**を使用すると、MARC標準への地域適応を読み込んで使用できます。

ローカルで作成された**拡張パック**は、適切な権限を持つ**目録管理者**がコミュニティゾーンで共有できます。コミュニティゾーンの投稿者として、コミュニティゾーンで**拡張パック**の.xmlファイルを追加および削除できます。

拡張パックには、データフィールドに加えて、LDRやコントロールフィールド007および008などの固定フィールドを含めることができます。固定フィールドへの**変更**は、MDエディタのフォームエディタドロップダウンリストに表示されます。**拡張パック**を追加する際のプロファイル要素の処理方法の概要については、以下の表を参照してください。

Note

ユーザーが**拡張パック**を使用して**MARC**プロファイルを変更し、プロファイルに別の**変更**を追加したい場合、ユーザーは最初に**拡張パック**を削除してから、新しいものをリロードする必要があります。すでに**変更**されているプロファイルに**拡張機能**をロードすることはできません。

拡張機能を追加するときのプロファイル要素の処理

プロファイル要素	LDR	コントロールフィールド/固定フィールド	データフィールド
タグ		<p>事前定義済みのフィールドと、プロファイルに存在するカスタマイズされたフィールドは残ります。</p> <p>拡張パックの新しいフィールドが追加されます。</p>	<p>事前定義済みのフィールドと、プロファイルに存在するカスタマイズされたフィールドは残ります。</p> <p>拡張パックの新しいフィールドが追加されます。</p>
サブフィールドコード			<p>事前定義済みのコードと、プロファイルに存在するカスタマイズされたコードは残ります。</p> <p>拡張パックの新しいコードが追加されます。</p>
ポジション	<p>プロファイルに存在する事前定義済みの位置は削除されます。</p> <p>プロファイルに存在するカスタムポジションは残ります。</p> <p>拡張パックから新しい位置が追加されます。</p>	<p>プロファイルに存在する事前定義済みの位置は削除されます。</p> <p>プロファイルに存在するカスタムポジションは残ります。</p> <p>拡張パックから新しい位置が追加されます。</p>	
ポジション値	<p>プロファイルに存在する事前定義済みの値はそのまま残ります。</p> <p>プロファイルに存在するカスタム値はすべて、拡張パックの新しい値に置き換えられます。</p>	<p>プロファイルに存在する事前定義済みの値はそのまま残ります。</p> <p>プロファイルに存在するカスタム値はすべて、拡張パックの新しい値に置き換えられます。</p>	
インジケータ値			<p>プロファイルに存在する事前定義済みの値はそのまま残ります。</p> <p>プロファイルに存在するカスタム値はすべて、拡張パックの新しい値に置き換えられます。</p>

プロファイル要素	LDR	コントロールフィールド/固定フィールド	データフィールド
サブフィールドの語彙制御			プロファイルに存在する事前定義済み、およびカスタム値は、 拡張パック の新しい値に置き換えられます。

拡張パックスキーマについては[拡張パック.xsd](#)を、追加情報とサンプル.xmlファイルについては[拡張パック.xmlファイルの例](#)を参照してください。

詳細については、[リソース管理 - MARC拡張機能](#)を参照してください。

拡張パックの管理

拡張パック (.xmlファイル) をローカルのMARCベースのプロファイルに追加するか、**拡張パック**をコミュニティゾーンに追加して他の機関と共有できます。

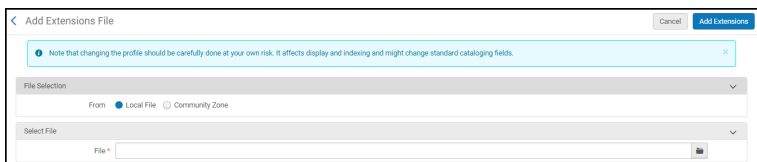
?張パックを追加または共有するには：

1. .xml拡張ファイルをローカルで作成します（詳細については、[拡張パックの.xmlファイルの例](#)を参照してください）。
2. [メタデータ設定リスト] ページ（[設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定]）から、拡張するMARCベースのプロファイルのリンクを選択します。
3. [フィールド] タブから、[**拡張機能の追加**] メニューでオプションを選択します。

。 [機関へ]

このオプションを使用して、設定するプロファイルに.xml拡張パックファイルを追加します。

このオプションを選択すると、コミュニティゾーンまたはローカルファイルの1つからMARCベースのプロファイルに**拡張パック**の.xmlファイルを追加することを選択できます。



拡張パックの.xmlファイルをMARCベースのプロファイルに追加する

コミュニティゾーンオプションを選択すると、コミュニティゾーンの共有.xmlファイルのリストが表示されます。**拡張パック**の.xmlファイルをローカルストレージにダウンロードするか、**拡張パック**の.xmlファイルをプロファイルに直接追加できます。

4. [コミュニティへ]

このオプションを使用して、他の機関と共有するための.xml拡張パックファイルをコミュニティゾーンに追加します。

このオプションを選択すると、**拡張パック**の名前、**説明**、**拡張パック**の問い合わせ先、連絡先の電子メールアドレス、および.xml拡張パックファイルの詳細を提供するよう求められます。

拡張パックをコミュニティゾーンに追加する

5. [拡張機能の追加] を選択します。

コミュニティゾーンに追加された拡張パックの.xmlファイルの場合、追加されたファイルと投稿メッセージが[共有拡張機能] ページに表示されます。

Extension Name	File Name	Extension Description	Contributed By	Contact Name	Contact Email	Contribution Date
1 GND Example 01	GND_Example0...	-	TRAINING_TJN...	-	csquaredwork@...	23/03/2018

共有拡張機能ページ

処理中にシステムが同じ値の複数のオカレンスを検出した場合、最初のオカレンスが適用され、他の冗長なオカレンスは無視されます。

6. 変更を確認/確認します。

7. [配置] を選択します。

変更を確認/確認します。すべての拡張機能を削除するには、[拡張機能の削除] を選択し、確認ダイアログボックスで[確認] を選択します。

適切な権限があれば、コミュニティゾーンに投稿した拡張パックの.xmlファイルを削除できます。行のアクションリストから[削除] を選択します。

Note

メンバーがNZレベルの拡張パックを持つMARCプロファイルのネットワークゾーンレコードを編集する場合、標準フィールドをカタログ化する場合にのみ、NZ拡張パックの制御された語彙部分が利用可能になります。

メンバーがIZレベルの拡張パックを持つMARCプロファイルの機関ゾーンレコードを編集する場合、ローカル拡張フィールドをカタログ化する場合のみ（機関アイコン付き



)、IZ拡張パックの制御された語彙部分が利用可能になります。

拡張パック.xsd

フィールド、サブフィールド、インジケータ、および拡張パックの.xmlファイルで指定できる値または特性を識別する以下の.xsdファイルを参照してください。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xs:schema xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
elementFormDefault="qualified" targetNamespace="http://com/exlibris/repository/
mdprofile/xmlbeans"
xmlns="http://com/exlibris/repository/mdprofile/xmlbeans">

<!-- marc_profile element definition -->
<xs:element name="marc_profile">
<xs:complexType>
<xs:sequence>
<xs:element ref="leader_configuration" minOccurs="1"
maxOccurs="1" />
<xs:element ref="control_fields_list" minOccurs="1"
maxOccurs="1" />
<xs:element ref="data_fields_list" minOccurs="1"
maxOccurs="1" />
</xs:sequence>
</xs:complexType>
</xs:element>

<!-- XSD element definition -->
<!-- leader element definition -->
<xs:element name="leader_configuration">
<xs:complexType>
<xs:sequence>
<xs:element name="positions_list" minOccurs="1"
maxOccurs="1" type="positionsListType" />
</xs:sequence>
</xs:complexType>
</xs:element>

<!-- control_fields_list element definition -->
<xs:element name="control_fields_list">
<xs:complexType>
<xs:sequence>
<xs:element name="control_field_configuration" minOccurs="0"
maxOccurs="unbounded">
<xs:complexType>
<xs:sequence>
<xs:element name="description" minOccurs="1"
maxOccurs="1" type="xs:string" />
<xs:element name="help_url" minOccurs="0"
maxOccurs="1" type="xs:string" />
<xs:element name="materials_type_list" minOccurs="1"
maxOccurs="1" type="materialstypeListType" />
</xs:sequence>
<xs:attribute name="tag" type="tagType" use="required" />
<xs:attribute name="repeatable" type="xs:boolean"
use="required" />
<xs:attribute name="mandatory" type="xs:boolean" use="optional" />

```

```

</xs:complexType>
</xs:element>
</xs:sequence>
</xs:complexType>
</xs:element>

<!-- data_fields_list element definition -->
<xs:element name="data_fields_list">
<xs:complexType>
<xs:sequence>
<xs:element name="data_field_configuration" minOccurs="0"
maxOccurs="unbounded">
<xs:complexType>
<xs:sequence>
<xs:element name="description" minOccurs="1"
maxOccurs="1" type="xs:string" />
<xs:element name="help_url" minOccurs="0"
maxOccurs="1" type="xs:string" />
<xs:element name="first_indicator_configuration" type="indicatorType"
minOccurs="0" maxOccurs="1" />
<xs:element name="second_indicator_configuration"
type="indicatorType" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
<xs:element name="sub_fields_list" minOccurs="0"
maxOccurs="1" type="subfieldType">
<xs:key name="sub_field_configuration-unique">
<xs:selector xpath="sub_field_configuration" />
<xs:field xpath="@code" />
</xs:key>
</xs:element>
</xs:sequence>
<xs:attribute name="tag" type="tagType" use="required" />
<xs:attribute name="repeatable" type="xs:boolean"
use="required" />
<xs:attribute name="mandatory" type="xs:boolean" use="optional" />
</xs:complexType>
</xs:element>
</xs:sequence>
</xs:complexType>
</xs:element>

<!-- XSD complex type definition -->
<xs:complexType name="positionsListType">
<xs:sequence>
<xs:element name="position_configuration" type="positionType"
minOccurs="0" maxOccurs="unbounded" />
</xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="positionType">
<xs:sequence>

```

```

<xs:element name="description" minOccurs="1" maxOccurs="1"
type="xs:string" />
<xs:element name="values" minOccurs="1" maxOccurs="1"
type="valuesType" />
</xs:sequence>
<xs:attribute name="start" type="customIntegerType" use="required" />
<xs:attribute name="end" type="customIntegerType" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="valuesType">
<xs:sequence>
<xs:element name="value" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
<xs:complexType>
<xs:simpleContent>
<xs:extension base="xs:string">
<xs:attribute name="code" type="codeType" use="required" />
</xs:extension>
</xs:simpleContent>
</xs:complexType>
</xs:element>
</xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="subfieldValuesType">
<xs:sequence>
<xs:element name="value" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
<xs:complexType>
<xs:simpleContent>
<xs:extension base="xs:string">
<xs:attribute name="code" type="codeType" use="required" />
</xs:extension>
</xs:simpleContent>
</xs:complexType>
</xs:element>
</xs:sequence>
<xs:attribute name="codeTable" type="xs:string" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="indicatorType">
<xs:sequence>
<xs:element name="description" minOccurs="1" maxOccurs="1"
type="xs:string" />
<xs:element name="values" minOccurs="1" maxOccurs="1"
type="valuesType" />
</xs:sequence>
<xs:attribute name="mandatory" type="xs:boolean" use="optional" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="subfieldType">
<xs:sequence>

```

```

<xs:element name="sub_field_configuration" minOccurs="0"
maxOccurs="unbounded">
  <xs:complexType>
  <xs:sequence>
  <xs:element name="description" minOccurs="1" maxOccurs="1"
type="xs:string" />
  <xs:element name="values" minOccurs="0" maxOccurs="1"
type="subfieldValuesType" />
  <xs:element name="materials_type_list" minOccurs="0"
maxOccurs="1" type="materialstypeListType" />
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="code" type="subfieldCodeType" use="required" />
  <xs:attribute name="repeatable" type="xs:boolean" use="required" />
  <xs:attribute name="mandatory" type="xs:boolean" use="optional" />
  </xs:complexType>
</xs:element>
</xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="materialstypeListType">
  <xs:sequence>
  <xs:element name="material_type_configuration" minOccurs="0"
maxOccurs="unbounded" type="materialtypeType">
  </xs:element>
  </xs:sequence>
</xs:complexType>
<xs:complexType name="materialtypeType">
  <xs:sequence>
  <xs:element name="positions_list" minOccurs="1" maxOccurs="1"
type="positionsListType" />
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="name" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<!-- XSD simple type definition -->
<xs:simpleType name="tagType">
  <xs:restriction base="xs:string">
  <xs:pattern value="[0-9]{3}" />
  </xs:restriction>
</xs:simpleType>
<xs:simpleType name="customIntegerType">
  <xs:restriction base="xs:string">
  <xs:pattern value="[0-9]+" />
  </xs:restriction>
</xs:simpleType>

<xs:simpleType name="codeType">
  <xs:restriction base="xs:string">
  <xs:pattern value="[a-z#0-9|]+" />
  </xs:restriction>

```

```

</xs:simpleType>
<xs:simpleType name="subfieldCodeType">
<xs:restriction base="xs:string">
<xs:pattern value="[a-z0-9]{1}" />
</xs:restriction>
</xs:simpleType>
</xs:schema>

```

拡張パックの.xmlファイルの例

メタデータプロファイルに適用できる拡張パックファイルの例については、以下の.xmlファイルを参照してください。

拡張パックを使用せずに手で、[フィールドの編集](#)で説明されているように、プロファイルの詳細ページのフィールドタブから [カスタマイズ] アクションを使用して既存のフィールド情報を変更できます。

拡張パックの.xmlファイルでは、正式な基準の一部ではない追加の値（フィールド、サブフィールド、およびインジケータ）を追加し、既存の値（基準の一部として定義されているか、以前の拡張機能の追加ロードの一部として定義されている値）を上記の.xsd ([Extension Pack .xsd](#)) で識別されたスキーマと一致するように更新できます。

拡張パックを使用すると、メタデータプロファイルに対して複数の一意の拡張機能を作成できるため、拡張機能を単一のファイルに含める必要がありません。複数の拡張パックの.xmlファイルをロードできます。ロードする各追加ファイルは、追加ファイルで指定されたフィールドのみをカスタマイズします。フィールドが拡張パックの.xmlファイルによって以前にカスタマイズされており、メタデータプロファイルに追加される後続の拡張パックの.xmlファイルで定義/カスタマイズされている場合、そのフィールドのカスタマイズは、追加された最新の.xmlファイルを反映するためにオーバーライドされます。

Note

拡張パックを使用して行ったカスタマイズは、[復元] アクションを選択すると上書きされます。

機関が共通の地域拡張パックの.xmlファイルを共有する場合、Ex Librisの開発者ネットワークはこれらのファイルを共有する機能を提供します。たとえば、開発者ネットワークのブログ[ドイツ語圏のMARC拡張パックを追加する方法](#)を参照してください。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<marc_profile xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:noNamespaceSchemaLocation="marc21_profile_configuration.xsd">
<control_fields_list>
<control_field_configuration mandatory="true" repeatable="false"
tag="003">
<description>PERSISTENT RECORD IDENTIFIER</description>
<materials_type_list />
</control_field_configuration>
</control_fields_list>
<data_fields_list>
<data_field_configuration repeatable="true" mandatory="false" tag="020"
xmlns="http://com/exlibris/repository/mdprofile/xmlbeans" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">
<sub_fields_list>
<sub_field_configuration code="9" mandatory="false" repeatable="true">

```

```

<description>Former ISBN
</description>
</sub_field_configuration>
</sub_fields_list>
</data_field_configuration>
<data_field_configuration repeatable="true" mandatory="false" tag="024"
xmlns="http://com/exlibris/repository/mdprofile/xmlbeans" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">
<sub_fields_list>
<sub_field_configuration code="9" mandatory="false" repeatable="true">
<description>Former ISSN
</description>
</sub_field_configuration>
</sub_fields_list>
</data_field_configuration>
<data_field_configuration repeatable="false" mandatory="false" tag="689"
xmlns="http://com/exlibris/repository/mdprofile/xmlbeans" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">
<description>SUBJECT HEADING CHAIN</description>
<help_url>http://www.google.com</help_url>
<first_indicator_configuration>
<description>Type of subject heading chain</description>
<values>
<value code="0">Simple chain</value>
<value code="1">Complex chain</value>
</values>
</first_indicator_configuration>
<second_indicator_configuration>
<description>Undefined</description>
<values>
<value code="#">Undefined</value>
</values>
</second_indicator_configuration>
<sub_fields_list>
<sub_field_configuration code="a" mandatory="true" repeatable="false">
<description>Heading chain first element
</description>
</sub_field_configuration>
<sub_field_configuration code="b" mandatory="false" repeatable="true">
<description>Heading chain second element</description>
</sub_field_configuration>
<sub_field_configuration code="c" mandatory="true" repeatable="true">
<description>Type of chain</description>
<values>
<value code="0">GND chain</value>
<value code="1">DNB chain</value>
</values>
</sub_field_configuration>
</sub_fields_list>
</data_field_configuration>

```

```
</data_fields_list>
</marc_profile>
```

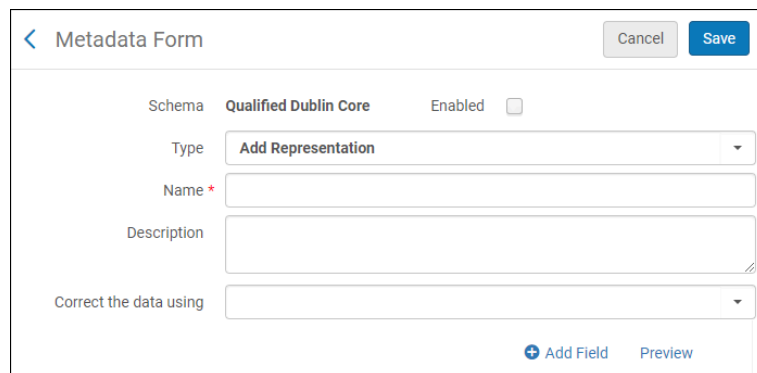
フォームの使用

デジタル表記を作成するときに使用されるフィールドのテンプレートで構成されるフォームを作成できます。
MARCフィールドを、フォームの作成に使用するラベルにマッピングできます。[MARCスリム設定](#)を参照してください。

フォームを作成するには

1. フォームタブを選択して、Qualified Dublin Core、MARC Bibliographic、または MODS プロファイルを設定します。
2. [フォームの追加] を選択し、次のいずれかを選択します。
 - [\[スタッフを介したデポジット\]](#)
 - [\[表記を追加\]](#)
 - [\[デポジット\]](#)

以下が表示されます。



メタデータフォーム

3. フォームのフィールドに入力し、[フィールドの追加] を選択します。フィールドタイプのリストが表示されます。
 - チェックボックス – 選択またはクリアできる単一のチェックボックス
 - コンボボックスの複数選択 – チェックボックスのドロップダウンリスト。複数のチェックボックスを選択できません。
 - コンボボックスの単一選択 – オプションのドロップダウンリスト。選択できるのは1つだけです。
 - 日付 – 日付ピッカー
 - 隠された – 所定のフィールドと値をメタデータレコードに自動的に追加するために使用される隠しフィールド。
 - ラジオボタン – 複数のラジオボタンが表示されます。選択できるのは1つだけです。
 - テキスト領域 – 複数行のテキストボックス

- テキストボックス – 1行のテキストボックス
- ルックアップ – 入力するとオプションが表示されます。または、このアイコンを選択してオプションのページを開きます。選択できるのは1つだけです。

Note

フォームにルックアップフィールドを追加は、表現およびスタッフ仲介によるデポジットの場合のみ可能になります。

4. フィールドタイプを選択します。選択したフィールドタイプのフィールドが表示されます。例：

The screenshot shows a configuration form for a 'Combo Box - Multi-select' field. The fields and their values are as follows:

Field Name	Value / Option
Type	Combo Box - Multi-select
Property *	[Empty dropdown]
Label *	[Empty text input]
Vocabulary	-
Field Size	Long
Tooltip	[Empty text input]
Language	[Empty dropdown]
Mandatory	<input type="checkbox"/>

フォームフィールド (Dublin Core フォーム)

5. 次のようにフィールドに入力します。
- プロパティまたはフィールド – (Dublin Coreの場合) フォームに追加するプロパティ、または (MARC 21の場合) フォームに追加するフィールド。
 - 属性名 – (MODSのみ) 選択したフィールドの属性名を選択します。
 - 属性値 – (MODSのみ) 選択した属性の値を入力します。
 - [ラベル] – プロパティのラベル。
 - 語彙 – 語彙を選択して、このフィールドがユーザーに表示されるオプションを決定します。詳細については、語彙の制御レジストリ - フォームを参照してください。
 - [フィールドサイズ] – フィールドを短くするか長くするかを選択します。
 - ツールチップ – 表示するツールチップメッセージ。
 - 言語 – 機関が学位論文または学術論文の言語として受け入れる言語。
 - [デフォルト値] – フォームに表示するデフォルト値を選択します。
 - 必須 – フォームを必須にする場合は、このオプションを選択します。
 - 繰り返し可能 – このオプションを選択すると、ユーザーはフィールドの複数のインスタンスを追加できるようになります。
6. [リストに保存] を選択します。プロパティがフォームに追加されます。
7. フォームにフィールドを追加するための手順を繰り返します。[プレビュー] を選択して、フォームのプレビューを表示します。
8. フォームへのフィールドの追加が終了したら、[保存] を選択します。

このフォームは、コレクションに関連付けることができます。詳細については、[コレクションの管理](#)を参照してください。

正規化プロセスの使用

正規化プロセスは、メタデータレコードを一括で修正/更新するために使用されます。レコードのフィールドの並べ替え、空のフィールドの削除、注文情報を含むフィールドの削除などの変更を行うことができます。正規化プロセスが作成されると、MD エディタで目録化する際に、あるいはそれを使用するジョブを実行することで使用できます。詳細については、[「プロセスの設定」](#)を参照してください。

Note

CZにリンクされたレコードは、正規化ルールプロセスの実行中にスキップされます。

MDエディタでCJK翻字を処理する正規化プロセスも作成できます。

Note

デフォルト テンプレートは、API 呼び出しや購入りクエストなどの自動化されたプロセスを通じて追加されたレコードを、該当する正規化プロセスによって処理される前に正規化します。レコードテンプレートの[操作を参照してください](#)。

[プロファイルの詳細] ページの [正規化プロセス] タブから次のアクションを実行できます ([設定メニュー] > リソース > 目録 > メタデータ設定)、および **MARC 21** 書誌などのプロファイルリンクのいずれかを選択します)。

- カスタマイズされた正規化プロセスを作成します。以下の [目録の設定](#) を参照してください。
- 正規化プロセスの編集 - 行アクションリストから [編集] を選択します。既存の正規化プロセスの設定は、次のタブに表示されます。
 - 一般情報
 - タスクリスト
 - タスクパラメータ
- 正規化プロセスを複製して複製コピーを変更します。行アクションのリストから、コピーを選択します。
- 正規化プロセスを無効にする - 正規化プロセスが現在必要ではないが、将来必要になる可能性がある場合は、有効列で無効化 (有効化) できます。
- 正規化プロセスの削除 - 行アクションリストから [削除] を選択します。

正規化プロセスの作成

新しいプロセスがメタデータ設定に保存された後、**MARC 21** 書誌正規化ジョブまたは認定**DC**正規化ジョブとして実行できるようになります。詳細については [定義済みセットでの手動ジョブの実行](#) を参照してください。

プロセスを作成する方法：

1. [プロファイルの詳細] ページの [正規化プロセス] タブで [プロセスの追加] を選択します ([設定メニュー] > [リソース] > [目録] > [メタデータ構成] > プロファイルリンクを選択)。
または、[プロセスリスト] ページ ([設定メニュー] > [リソース] > [一般] > [プロセス]) からプロセスを作成することもできます。

Note

既存のプロセスのコピーを作成するには、行アクションリストから【コピー】を選択します。プロセスをコピーしたら、必要に応じて編集できます。

2. [一般情報] セクションで
 - 。プロセスの名前と説明を入力します。これらの値は、プロセスリストページでユーザーに表示されます。
 - 。[ステータス] フィールドで、プロセスが有効（[有効]）かどうかを選択します。無効になっているプロセスは、実行せずにシステムに保存および編集できます。いつでも有効にできます。
3. [次へ] を選択し、[タスクの追加] を選択します。
4. 必要なタスクを選択し、[追加して閉じる] を選択します。

このページには、プロセス（またはタスクチェーン）に含めることができるタスクの定義済みリストが含まれています。タスクの説明については、「[タスクリストのオプション](#)」を参照してください。

追加のタスクを定義することはできず、これらのタスクのほとんどには固定パラメーターがあります。編集しているメタデータ構成によって、タスクは異なります。

「**MarcDroolNormalization**」（「**DcDroolNormalization** または **Marc XSL Normalization**」）タスクを選択して、次のステップにおいてMDエディタで作成した正規化ルール（「[正規化ルールの操作](#)」を参照）を選択できるようにします。
5. 上矢印と下矢印を使用して、タスクを実行する順序を調整します。
6. [次へ] を選択します。ウィザードの次のページが表示されます。表示されるパラメータは、選択したタスクによって異なります。
7. 保存を選択します。

タスクリストオプション

タスクリストオプション

プロセス名	説明
852フィールドの正規化	書誌レコードから管理番号を取得して、所蔵レコードの正しいサブフィールドに配置するタスクを実行します。 詳細については、 MARC 21所蔵プロファイルの操作 を参照してください。
addBibToCollectionNormalizationTask	MARCレコードの787フィールドの値に従って、インポートされたデジタルタイトルをコレクションに割り当てます。詳細については、 インポートプロファイルの管理 を参照してください。
ハンゲル翻字に韓文漢字を追加	以下に示すようにソースフィールドとターゲットフィールドを設定することにより、タイトルなどのコンテンツを韓文漢字からハンゲル文字に変換します。詳細については、 目録におけるCJK翻字の使用 を参照してください。この翻字プロセスは、MARC 21書誌およびMARC 21典拠の設定に加えて、KORMARC、UNIMARC、CNMARCなどのさまざまなMARC設定に使用できます。
ハンゲルCK翻字に韓文漢字を追加	以下に示すようにソースフィールドとターゲットフィールドを設定することにより、タイトルなどのコンテンツを韓文漢字からハンゲルCKに変換します。詳細については、 目録におけるCJK翻字の使用 を参照してください。この翻字プロセスは、MARC 21書誌およびMARC 21典

プロセス名	説明																																																																		
	<p>拠の設定に加えて、KORMARC、UNIMARC、CNMARCなどのさまざまなMARC設定に使用できます。</p>																																																																		
<p>ハンゲルMOE翻字に韓文漢字を追加</p>	<p>以下に示すようにソースフィールドとターゲットフィールドを設定することにより、タイトルなどのコンテンツを韓文漢字からハンゲルMOEに変換します。詳細については、目録におけるCJK翻字の使用を参照してください。この翻字プロセスは、MARC 21書誌およびMARC 21典拠の設定に加えて、KORMARC、UNIMARC、CNMARCなどのさまざまなMARC設定に使用できます。</p>																																																																		
<p>ピンイン翻字に韓文漢字を追加</p>	<p>以下に示すようにソースフィールドとターゲットフィールドを設定することにより、タイトルなどのコンテンツを韓文漢字からピンインに変換します。詳細については、目録におけるCJK翻字の使用を参照してください。この翻字プロセスは、MARC 21書誌およびMARC 21典拠の設定に加えて、KORMARC、UNIMARC、CNMARCなどのさまざまなMARC設定に使用できます。</p>																																																																		
<p>ピンイン翻字に漢字を追加</p>	<p>中国語のコンテンツをピンインに変換します。</p> <p>設定</p> <p>このプロセスの設定では、ソースとターゲットのフィールド/サブフィールドを漢字からピンインに指定する必要があります。</p> <div data-bbox="586 871 1084 1222" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ADD HANZI TO PINYIN TRANSLITERATIONS</p> <p>Add Alternate Graphic Representation <input type="checkbox"/></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>Source #</th> <th>Field</th> <th>Subfield</th> <th>Target #</th> <th>Field</th> <th>Subfield</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Source #1</td><td>Field</td><td>Subfield</td><td>Target #1</td><td>Field</td><td>Subfield</td></tr> <tr><td>Source #2</td><td>Field</td><td>Subfield</td><td>Target #2</td><td>Field</td><td>Subfield</td></tr> <tr><td>Source #3</td><td>Field</td><td>Subfield</td><td>Target #3</td><td>Field</td><td>Subfield</td></tr> <tr><td>Source #4</td><td>Field</td><td>Subfield</td><td>Target #4</td><td>Field</td><td>Subfield</td></tr> <tr><td>Source #5</td><td>Field</td><td>Subfield</td><td>Target #5</td><td>Field</td><td>Subfield</td></tr> <tr><td>Source #6</td><td>Field</td><td>Subfield</td><td>Target #6</td><td>Field</td><td>Subfield</td></tr> <tr><td>Source #7</td><td>Field</td><td>Subfield</td><td>Target #7</td><td>Field</td><td>Subfield</td></tr> <tr><td>Source #8</td><td>Field</td><td>Subfield</td><td>Target #8</td><td>Field</td><td>Subfield</td></tr> <tr><td>Source #9</td><td>Field</td><td>Subfield</td><td>Target #9</td><td>Field</td><td>Subfield</td></tr> <tr><td>Source #10</td><td>Field</td><td>Subfield</td><td>Target #10</td><td>Field</td><td>Subfield</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>漢字からピンインへのタスク設定</p> <p>正規化が処理されると、ターゲットフィールドの第1と第2インジケータは、ソースフィールドのインジケータと同じになります。</p> <p>翻字された単語はターゲットフィールド/サブフィールドに配置され、複数の翻字がある単語のみがターゲットフィールド/サブフィールドの山括弧<>に配置されます。その後、目録者は正しいものを選択し、その他を削除できます。</p> <p>香港中国語検索言語用に設定された機関では、漢字からピンインへの翻字プロセスを、山括弧ですべての可能な翻字オプションを提供する代わりに、最も一般的に使用される単語の翻字をレコードに追加することに注意してください。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>ターゲットサブフィールドにコンテンツが存在する場合、正規化プロセスはそれを上書きします。</p> <p>サブフィールドの削除は、この正規化プロセスの一部として処理されません。サブフィールドを削除するには、そのタスク専用の正規化プロセスを選択します。</p>	Source #	Field	Subfield	Target #	Field	Subfield	Source #1	Field	Subfield	Target #1	Field	Subfield	Source #2	Field	Subfield	Target #2	Field	Subfield	Source #3	Field	Subfield	Target #3	Field	Subfield	Source #4	Field	Subfield	Target #4	Field	Subfield	Source #5	Field	Subfield	Target #5	Field	Subfield	Source #6	Field	Subfield	Target #6	Field	Subfield	Source #7	Field	Subfield	Target #7	Field	Subfield	Source #8	Field	Subfield	Target #8	Field	Subfield	Source #9	Field	Subfield	Target #9	Field	Subfield	Source #10	Field	Subfield	Target #10	Field	Subfield
Source #	Field	Subfield	Target #	Field	Subfield																																																														
Source #1	Field	Subfield	Target #1	Field	Subfield																																																														
Source #2	Field	Subfield	Target #2	Field	Subfield																																																														
Source #3	Field	Subfield	Target #3	Field	Subfield																																																														
Source #4	Field	Subfield	Target #4	Field	Subfield																																																														
Source #5	Field	Subfield	Target #5	Field	Subfield																																																														
Source #6	Field	Subfield	Target #6	Field	Subfield																																																														
Source #7	Field	Subfield	Target #7	Field	Subfield																																																														
Source #8	Field	Subfield	Target #8	Field	Subfield																																																														
Source #9	Field	Subfield	Target #9	Field	Subfield																																																														
Source #10	Field	Subfield	Target #10	Field	Subfield																																																														

プロセス名	説明
-------	----

[代替グラフィック表記の追加] オプションを選択して、880フィールドを漢字からピンインへの翻字のターゲットとして識別します。このオプションを使用する場合、ソースフィールドのみを指定する必要があります。ソースフィールドのすべてのサブフィールドは、880フィールドに字訳されます。

General Information | Task List | Task Parameters

ADD HANZI TO PINIYIN TRANSLITERATIONS

Add Alternate Graphic Representation

Transliterate Entire Record

Source #1 Field

Source #2 Field

Source #3 Field

Source #4 Field

Source #5 Field

Source #6 Field

Source #7 Field

Source #8 Field

Source #9 Field

Source #10 Field

代替グラフィック表記を追加

レコード内のすべてのフィールドを漢字からピンインに翻字するには、[レコード全体を翻字] オプションを選択します。このオプションは、[代替グラフィック表記の追加] オプションを選択した後に表示されます。すべてのフィールドが翻字されるので（中国語のないフィールドを除く）、タスク設定でソースフィールドを指定する必要はありません。

General Information | Task List | Task Parameters

ADD HANZI TO PINIYIN TRANSLITERATIONS

Add Alternate Graphic Representation

Transliterate Entire Record

レコード全体を翻字する

大文字

漢字で始まり、翻字されるすべてのMARC 21フィールドでは、最初の翻字された文字は大文字になります。

個人名

漢字をピンイン翻字に追加する正規化タスクを使用し、Ex Librisが機関を香港の検索言語設定している場合、100、600、700、800フィールドの\$aにある個人名は次の方法で処理されます。

プロセス名	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • 姓（最初に翻字されたCJK文字）が最初です。 • 姓の後にコンマとスペースが配置されます。 • 姓の最初の文字と名の最初の文字は大文字になります。 • コンマ/スペースの後の翻字された名前は連結されます。 <p>中国語の翻字と比較した香港の翻字については、以下の例を参照してください。</p> <p>香港</p> <p>毛澤東 => Mao, Zedong</p> <p>中国語</p> <p>毛澤東 => mao ze dong</p> <p>詳細については、目録におけるCJK翻字の使用を参照してください。この翻字プロセスは、MARC 21書誌およびCNMARCプロファイルに使用できます。</p>
ハンゲル翻字にカナを追加	<p>以下に示すようにソースフィールドとターゲットフィールドを設定することにより、タイトルなどのコンテンツをカナからハンゲルに変換します。詳細については、目録におけるCJK翻字の使用を参照してください。この翻字プロセスは、MARC 21書誌およびMARC 21典拠の設定に加えて、KORMARC、UNIMARC、CNMARCなどのさまざまなMARC設定に使用できます。</p>
ローマ字カナ翻字にカナを追加	<p>以下に示すようにソースフィールドとターゲットフィールドを設定することにより、タイトルなどのコンテンツをカナからローマ字カナに変換します。詳細については、目録におけるCJK翻字の使用を参照してください。この翻字プロセスは、MARC 21書誌およびMARC 21典拠の設定に加えて、KORMARC、UNIMARC、CNMARCなどのさまざまなMARC設定に使用できます。</p>
addMmsIdToDcIdentifier	DCレコードのdc: identifierフィールドにMMSIDを追加します。
AuthorityGenerateControlNumberSequence	典拠レコードの制御番号シーケンスを生成するタスクを実行します。
BibGenerateControlNumberSequence	書誌レコードの管理番号シーケンスを生成するタスクを実行します。
BibGenerateLocalControlNumberSequence	<p>例えば、編集 > レコードの拡張がMDエディタでレコードを編集する際に選択されている場合、035フィールドに保存されているローカル請求番号を生成するタスクを（MARC21で）実行します。</p> <p>新しいプロセスを追加する場合、タスクを追加するを選択し、ローカル請求番号を生成するを選択し、追加して閉じるを選択し、タスクパラメータを設定するために次へを選択します。</p> <p>「書誌ターゲットフィールド」は単一のオプションをリストすることに注意してください：「035サブフィールドa」。</p>
BibGenerateHandle	
CnmarcBibAdd005Task	005フィールドは、MDエディタで保存する場合にのみ追加されます。
CnmarcBibClearEmptyFieldsTask	このプロセスは、空の書誌フィールドを削除するタスクを実行します。
CnmarcBibReSequenceTask	このプロセスは、001、100、200などの適切な順序に従って書誌フィールドを再配列するタスクを実行します。

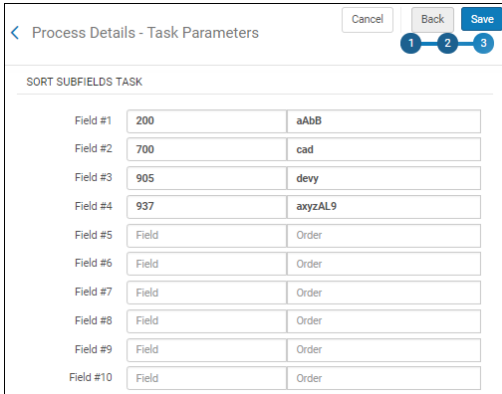
プロセス名	説明
	500から899までのフィールドはソートされません（または百の位でのみソートされます）。
CnmarcBibTag100OpenDateTask	100フィールドが存在する場合、現在の日付は、YYYYMMDD形式を使用して、00～07の位置の100 \$aの先頭に配置されます。
CnmarcBibTag100Task	Almaは、CNMARC 210\$dに入力された日付（および4桁の連続した数字が含まれている場合は210 \$h）に従って、CNMARC 100フィールドの09～12および13～16の位置に日付を自動的に挿入または修正します。さらに、210 \$dが標準化されています。198?や19?のような日付の場合、たとえば、Almaは疑問符とスペースを「-」（ハイフン）に置き換えます。
Create210BasedOn010	<p>この正規化プロセスタスクは、MARC 210 \$aをレコードに追加し、MARC 010 \$aのISBNとAlma内で管理されるテーブルに基づいて、中国の出版社を210に配置します。このタスクを選択した状態で正規化プロセスを作成して保存したら、MDエディタの〔編集>レコードの拡張〕オプションを使用して、目録化しているレコードを更新できます。</p> <p>詳細については、MDエディタページのナビゲーションにある、MDエディタ - 編集メニュー表内のMDエディタのレコード拡張を参照してください</p>
DcBibClearEmptyFieldsTask	空のDublin Coreフィールドを削除するタスクを実行します。
DcBibResequeneTask	適切な順序に従ってDublin Coreフィールドを再配列するタスクを実行します。
DcDroolNormalization	<p>実行する正規化ルールを選択します。詳細については、「MARC Droolの正規化」を参照してください。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>MDエディタで共有ルールとして作成された正規化ルールのみを選択できます。</p> <hr/> <p>詳細については、「正規化プロセスの操作」を参照してください。</p>
簡易レベルの識別	レコードの簡易レベルを計算するタスクを実行します。
中国人著者の請求番号を生成する	<p>MDエディタでレコードを編集しているときに、たとえば〔編集>レコードの拡張〕を選択すると、905フィールドに保存される中国人の著者の請求番号を生成するタスク（CNMARC）を実行します。</p> <p>新しいプロセスを追加するときは、〔タスクの追加〕を選択し、〔中国人著者の請求番号を生成する〕を選択し、〔追加して閉じる〕を選択し、〔次へ〕を選択して、〔著者番号生成ルーチンの選択〕ドロップダウンリストから著者番号生成ルーチンにアクセスして選択します。</p> <p>次の著者番号生成ルーチンオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 090中国人著者番号生成ルーチン1 <p>これは、ルーチン1を使用して090フィールドに著者番号を生成する一般中国著者番号テーブルに基づくCNMARC書誌レコードの請求番号生成ルーチンです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 090中国人著者番号生成ルーチン2 <p>これは、ルーチン2を使用して090フィールドに著者番号を生成する一般中国著者番号テーブルに基づくCNMARC書誌レコードの請求番号生成ルーチンです。</p>

プロセス名	説明
	<ul style="list-style-type: none"> 090中国人著者番号生成ルーチン3 <p>これは、ルーチン3を使用して090フィールドに著者番号を生成する一般中国著者番号テーブルに基づくCNMARC書誌レコードの請求番号生成ルーチンです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国人著者番号生成905ルーチン1 <p>これは、ルーチン1を使用して905フィールドに著者番号を生成する一般中国著者番号テーブルに基づくCNMARC書誌レコードの請求番号生成ルーチンです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 090請求番号生成ルーチン1に基づいたシーケンス <p>次のシーケンスは、090フィールドに生成されます。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>このルーチンは、バッチ処理ではなく、レコードを手動で編集する場合にのみ使用してください。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 090請求番号保守ルーチン1に基づいたシーケンス <p>この保守ルーチンは、書誌レコードの090フィールドからAlmaのシーケンスを保存します。これは新しいシーケンスを生成しませんが、代わりに、書誌レコードから既存のシーケンスを保存します。これは、移行後やMDインポート後などのバッチ更新後に使用できます。これは、Almaシーケンスと書誌レコードに保存されているものを同じにするために使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 905請求番号生成ルーチン1に基づいたシーケンス <p>次のシーケンスは、905フィールドに生成されます。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>このルーチンは、バッチ処理ではなく、レコードを手動で編集する場合にのみ使用してください。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 905請求番号保守ルーチン1に基づいたシーケンス <p>この保守手順は、書誌レコードの905フィールドからシーケンスをAlmaに保存します。これは新しいシーケンスを生成しませんが、代わりに、書誌レコードから既存のシーケンスを保存します。これは、移行後やMDインポート後などのバッチ更新後に使用できます。これは、Almaシーケンスと書誌レコードに保存されているものを同じにするために使用されます。</p> <p>MDエディタ (F4) パラメーターで著者番号を生成するときに [使用] を選択すると、MDエディタで、[著者番号生成ルーチンを選択] パラメーターで選択した著者番号生成のタイプを有効にします。</p>  <p>MDエディタ (F4) パラメーターで著者番号を生成するときに使用します</p>

プロセス名	説明
	<p>正規化のためにこのオプションを選択すると、MDエディタでF4を押すと、システムは通常の著者番号生成の代わりにこのプロファイルで識別される著者番号生成ルーチンを使用します。</p>
MARC21作成者の請求番号を生成	<p>MDエディタでレコードを編集時に〔編集>レコードの拡張〕が選択された場合など、905フィールドに保存されている中国人著者の請求番号を生成するタスク（MARC 21）を実行します。これは、[中国人著者の請求番号を生成]プロセスのMARC 21バージョンです。</p> <p>新しいプロセスを追加するときは、〔タスクの追加〕を選択し、〔中国人著者の請求番号を生成する〕を選択し、〔追加して閉じる〕を選択し、〔次へ〕を選択して、〔著者番号生成ルーチンの選択〕ドロップダウンリストから著者番号生成ルーチンにアクセスして選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 090カッター番号生成ルーチン1 <p>これは、ルーチン1を使用して090フィールドに著者番号を生成する一般中国著者番号テーブルに基づくMARC 21書誌レコードの請求番号生成ルーチンです。</p> • 090カッター番号生成ルーチン2 <p>これは、ルーチン2を使用して090フィールドに著者番号を生成する一般中国著者番号テーブルに基づくMARC 21書誌レコードの請求番号生成ルーチンです。</p> • 090カッター番号生成ルーチン3 <p>これは、ルーチン3を使用して090フィールドに著者番号を生成する一般中国著者番号テーブルに基づくMARC 21書誌レコードの請求番号生成ルーチンです。</p> • 090カッター番号生成ルーチン4 <p>これは、ルーチン4を使用して090フィールドに著者番号を生成する一般中国著者番号テーブルに基づくMARC 21書誌レコードの請求番号生成ルーチンです。</p> • カッター番号生成905ルーチン1 <p>これは、ルーチン1を使用して905フィールドに著者番号を生成する一般中国著者番号テーブルに基づくMARC 21書誌レコードの請求番号生成ルーチンです。</p> • 090請求番号生成ルーチン1に基づいたシーケンス <p>次のシーケンスは、090フィールドに生成されます。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>このルーチンは、バッチ処理ではなく、レコードを手動で編集する場合にのみ使用してください。</p> <hr/> • 090請求番号保守ルーチン1に基づいたシーケンス <p>この保守ルーチンは、書誌レコードの090フィールドからAlmaのシーケンスを保存します。これは新しいシーケンスを生成しませんが、代わりに、書誌レコードから既存のシーケンスを保存します。これは、移行後やMDインポート後などのバッチ更新後に使用できます。これは、Almaシーケンスと書誌レコードに保存されているものを同じにするために使用されます。</p> • 905請求番号生成ルーチン1に基づいたシーケンス <p>次のシーケンスは、905フィールドに生成されます。</p>

プロセス名	説明
	<p>Note</p> <p>このルーチンは、バッチ処理ではなく、レコードを手動で編集する場合にのみ使用してください。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 905請求番号保守ルーチン1に基づいたシーケンス <p>この保守手順は、書誌レコードの905フィールドからシーケンスをAlmaに保存します。これは新しいシーケンスを生成しませんが、代わりに、書誌レコードから既存のシーケンスを保存します。これは、移行後やMDインポート後などのバッチ更新後に使用できます。これは、Almaシーケンスと書誌レコードに保存されているものを同じにするために使用されます。</p> <p>MDエディタ（F4）パラメーターで著者番号を生成するときに〔使用〕を選択すると、MDエディタで、〔著者番号生成ルーチンを選択〕パラメーターで選択した著者番号生成のタイプを有効にします。</p> <p>正規化のためにこのオプションを選択すると、MDエディタでF4を押すと、システムは通常の著者番号生成の代わりにこのプロファイルで識別される著者番号生成ルーチンを使用します。</p>
MARC正規化ルール	〔タスクパラメーター〕タブでパラメーターとして選択された正規化ルールを実行します。
863/4/5タスクによるMARC21所蔵展開	<p>863/864/865 要約報告所蔵フィールドを追加するタスクを実行します。</p> <p>詳細については、MARC 21所蔵プロファイルの操作を参照してください。</p>
866/7/8タスクによるMARC21所蔵展開	<p>866/867/868 テキスト所蔵フィールドに説明を追加するタスクを実行します。</p> <p>詳細については、MARC 21所蔵プロファイルの操作を参照してください。</p>
Marc21AuthClearEmptyFieldsTask	空の典拠フィールドを削除するタスクを実行します。
Marc21AuthResequeneTask	適切な順序に従って典拠レコードフィールドを再配列するタスクを実行します。
Marc21BibClearEmptyFieldsTask	<p>空の書誌フィールドを削除するタスクを実行します。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>空のフィールドを持つレコードは保存できないため、このタスクをすぐに使用できるプロセスから削除することはできません。</p>
Marc21BibResequeneTask	<p>適切な順序（001、100、200など）に従って書誌フィールドを再配列するタスクを実行します。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>500から899までのフィールドはソートされません（または百の位でのみソートされます）。689フィールド（ドイツ市場のみに関連）は、そのインジケーターでソートされま</p>

プロセス名	説明
	<p>す。</p>
Marc21createControlNumber	<p>書誌レコードの001および003フィールドから新しい管理番号を作成し、035フィールドに配置するタスクを実行します。</p>
Marc21HoldingClearEmptyFieldsTask	<p>空の所蔵フィールドを削除するタスクを実行します。</p> <p>詳細については、MARC 21所蔵プロファイルの操作を参照してください。</p>
Marc21HoldingResequeneTask	<p>適切な順序に従って所蔵フィールドを再配列するタスクを実行します。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>フィールド5XXと8XXはソートされません。</p> <hr/> <p>詳細については、MARC 21所蔵プロファイルの操作を参照してください。</p>
MARC21所蔵修正001フィールド	<p>001フィールドを所蔵レコードに書き込みます。</p> <p>詳細については、MARC 21所蔵プロファイルの操作を参照してください。</p>
MarcDroolNormalization	<p>実行する正規化ルールを選択します。正規化プロセスでは、メタデータエディターですでに定義され保存されている共有正規化ルールを構成要素として使用します（「正規化ルールの操作」を参照）。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>プライベート正規化ルールは、正規化プロセスに使用することはできません。</p> <hr/>  <p>正規化ルールの作成に関する詳細については、正規化ルールの操作を参照してください。</p>
MarcXSLNormalization	<p>実行する正規化ルールを選択します。</p> <p>正規化プロセスは、共有済のすでに定義されかつメタデータエディタ保存された正規化ルールを構成要素として使用します（「正規化ルールの操作」を参照）。</p>

プロセス名	説明																																	
	<p>Note</p> <p>プライベート正規化ルールは、正規化プロセスに使用することはできません。</p>  <p>正規化ルールの作成に関する詳細については、正規化ルールの操作を参照してください。</p>																																	
MmsTagSuppressed	<p>選択した値TrueまたはFalse（Primoへの公開を抑制するレコードの場合はTrue、Primoへのレコードの公開を許可する場合はFalse）に従って、書誌レコードをディスカバリーから非公開/公開するタスクを実行します。</p>																																	
MmsTagSyncExternal	<p>以下の選択された値のいずれかに従って、外部目録との書誌レコードの同期ポリシーを設定するタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 書誌レコードの公開 – 書誌レコードをエクスポートに含めるようにマークします。 • 所蔵のみを公開 – 所蔵レコードをエクスポートに含めるようマークします。 • 公開しない – レコードをエクスポートから除外するようマークします。 																																	
MmsTagSyncNationalCatalog	<p>以下の選択された値のいずれかに従って、全国目録と書誌レコードの同期ポリシーを設定するタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 書誌レコードの公開 – 書誌レコードをエクスポートに含めるようにマークします。 • 公開しない – レコードをエクスポートから除外するようマークします。 																																	
サブフィールドの並べ替えタスク	<p>正規化中に特定のフィールドのサブフィールドの順序をソートするには、このタスクを選択します。このタスクを [プロセスの詳細] - [タスクの追加] ページに追加し、[次へ]を選択すると、サブフィールドの並べ替えタスクセクションが表示され、特定のフィールドのサブフィールドの順序を最大10種類までカスタマイズできます。</p>  <table border="1" data-bbox="586 1543 1084 1934"> <thead> <tr> <th>Field #</th> <th>Field</th> <th>Order</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Field #1</td> <td>200</td> <td>aAbB</td> </tr> <tr> <td>Field #2</td> <td>700</td> <td>cad</td> </tr> <tr> <td>Field #3</td> <td>905</td> <td>devy</td> </tr> <tr> <td>Field #4</td> <td>937</td> <td>axyzAL9</td> </tr> <tr> <td>Field #5</td> <td>Field</td> <td>Order</td> </tr> <tr> <td>Field #6</td> <td>Field</td> <td>Order</td> </tr> <tr> <td>Field #7</td> <td>Field</td> <td>Order</td> </tr> <tr> <td>Field #8</td> <td>Field</td> <td>Order</td> </tr> <tr> <td>Field #9</td> <td>Field</td> <td>Order</td> </tr> <tr> <td>Field #10</td> <td>Field</td> <td>Order</td> </tr> </tbody> </table>	Field #	Field	Order	Field #1	200	aAbB	Field #2	700	cad	Field #3	905	devy	Field #4	937	axyzAL9	Field #5	Field	Order	Field #6	Field	Order	Field #7	Field	Order	Field #8	Field	Order	Field #9	Field	Order	Field #10	Field	Order
Field #	Field	Order																																
Field #1	200	aAbB																																
Field #2	700	cad																																
Field #3	905	devy																																
Field #4	937	axyzAL9																																
Field #5	Field	Order																																
Field #6	Field	Order																																
Field #7	Field	Order																																
Field #8	Field	Order																																
Field #9	Field	Order																																
Field #10	Field	Order																																

プロセス名	説明
	<p>サブフィールドの並べ替えタスク</p> <p>ソート順で指定されていないフィールドに他のサブフィールドがある場合、それらは元の順序でソートされたサブフィールドの後に追加されます。ソート用にカスタマイズされていないフィールドは、元のサブフィールドの順序を維持します。並べ替えのカスタマイズでは大文字と小文字が区別されます。小文字と大文字は別々に扱われます。</p>
UnimarcBibAdd005Task	<p>005フィールドは、MDエディタで保存する場合にのみ追加されます。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>SBNを使用する機関については、SBNまたはUNIMARCのタスクUnimarcBibAdd005Taskの設定を参照してください。</p> <hr/>
UnimarcBibClearEmptyFieldsTask	<p>このプロセスは、空の書誌フィールドを削除するタスクを実行します。</p>
UnimarcBibReSequenceTask	<p>このプロセスは、001、100、200などの適切な順序に従って書誌フィールドを再配列するタスクを実行します。</p> <p>500から899までのフィールドはソートされません（または百の位でのみソートされます）。</p>
UnimarcBibTag100OpenDateTask	<p>100フィールドが存在する場合、現在の日付は、YYYYMMDD形式を使用して、00～07の位置の100 \$aの先頭に配置されます。</p>
UnimarcBibTag100Task	<p>Almaは、UNIMARC 210\$dに入力された日付（および4桁の連続した数字が含まれている場合は210 \$h）に従って、UNIMARC 100フィールドの09～12および13～16の位置に日付を自動的に挿入または修正します。さらに、210 \$dが標準化されています。198?や19?のような日付の場合、たとえば、Almaは疑問符とスペースを「-」（ハイフン）に置き換えます。</p>
発信元システム情報を更新する	<p>このオプションを使用して、〔一致時上書き〕オプションまたは〔統合〕オプションでレコードをインポートするときにバージョン防止に使用される発信元システムバージョンを設定し、〔発信元システムを検討〕または〔発信元システムを無視〕オプションを選択します。2015年9月リリースより前にシステムに保存されたレコードには、発信元システムバージョン情報がありません。Almaは、プロセス自動化ジョブを使用して、プロセスリストプールから選択された発信元システム情報を更新することで、この情報を設定する機能を提供します。2015年9月リリース後にインポートされたレコードの場合、発信元システムと発信元システムバージョンが自動的に追加されます。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>2015年9月リリースより前のこれら既存のレコードを処理する場合、正規化タスクでコミュニティゾーンにリンクされたレコードは変更されないことに注意してください。</p> <hr/> <p>発信元システム情報と発信元システムバージョン情報を管理するための正規化を設定するには、〔発信元システム情報の更新〕を使用してプロセスをセットアップする方法に関する手順を参照してください</p>

発信元システムを管理するための正規化の設定

発信元システムと発信元システムのバージョン情報を管理するための正規化を設定するには

1. [プロセスリスト] ページ ([設定メニュー>リソース>全般>プロセス]) で、[プロセスの追加] を選択します。
2. 以下で識別されるパラメーターに対して以下のオプションを選択し、[次へ] を選択します。
 - 。 ビジネスエンティティ - 書誌タイトル
 - 。 タイプ - MARC 21 書誌正規化 (または環境に応じて他のオプションタイプ)
3. [一般情報] セクションに入力して、[次へ] を選択します。
4. [タスクの追加] を選択し、[元のシステム情報の更新] を選択します。
5. [追加して閉じる] を選択し、[次へ] を選択します。
6. 要件に応じて、次のパラメーターのいずれかを選択します。

Note

選択したパラメーターについては、関連するパラメーターも指定する必要があります (存在する場合)。

- 。 発信元システムの更新-インポートされたレコードのメタデータで特定する発信元システム。

School Climate Thomas I. Ellis.	
MMS ID	99176498801421
Suppress from publishing	No
Export to WorldCat	Don't publish
Export to Libraries Australia	Don't publish
Brief level	01
Record Format	marc21
Suppress from external search	No
Originating system	ILS
Originating system ID	1764988

発信元システム

- 。 発信元システムバージョンの更新 - レコードのメタデータに保存する日付。この日付は、レコードの一致を処理するためにインポートプロファイルで上書き/統合防止オプションを選択するときを使用されます ([インポートプロファイルの作成/編集: プロファイルの一致](#)を参照)。この日付パラメーターの形式はMM/DD/YYYYです。発信元システムバージョンの形式はYYYYMMDDhhmmss.fです (hhmmss.fは時間、分、秒、および秒の小数部であり、24時間制が使用されます)。このパラメーターを指定して正規化が行われると、AlmaはYYYYMMDD000000.0を入力します。発信元システムバージョンのhhmmss.f部分にゼロが入力されます。

Note

メタデータインポートを使用する場合、Almaは、発信元システムバージョンフィールドのインポートされたレコードの005コントロールフィールドから日付と時刻 (YYYYMMDDhhmmss.fとしてフォーマットされ

ています)を取得します。005コントロールフィールドと日付/時刻形式の例については、次の図を参照してください。

005 20140113085714.0

正規化プロセスは、[発信元システムバージョン]パラメーターでカレンダーから入力または選択された日付に従って、発信元システムバージョンフィールドを更新します。たとえば、[元のシステムバージョン]パラメーターに選択された日付で正規化プロセスを使用する**MARC 21**書誌正規化ジョブを実行すると、指定した日付は、ジョブに選択したセット内のすべてのレコードに適用されます。

- 。 [既存の発信元システムバージョン値の更新]-選択した発信元システムバージョン(上記)が既存のバージョンを上書きするかどうか。選択しない場合、既存のバージョンはそのまま残ります。

7. [保存]を選択します。

作成したプロセスを実行して、一連のレコードの発信元システムバージョン情報を更新するには、[定義済みセットでの手動ジョブの実行](#)ページの手順に従います。必要に応じて、ジョブを実行するときに、[元のシステム]または[元のシステムバージョン]パラメータを**変更/上書き**できます。

検証プロセスの編集

事前定義済みの検証プロセスの例は次のとおりです。

MARC21書誌メタデータの設定

- MARC 21書誌一致検証-インポートプロセス中またはMDエディタで書誌レコードの一致が実行された場合の検証の処理方法を定義します。
- 保存時のMARC 21書誌検証-インポートプロファイルを使用してMARCレコードをインポートし、外部リソース(WorldCatやLoCなど)を介して目録をコピーし、MDエディタで書誌レコードを保存するときの検証の処理方法を定義します。

MARC21権限メタデータの設定

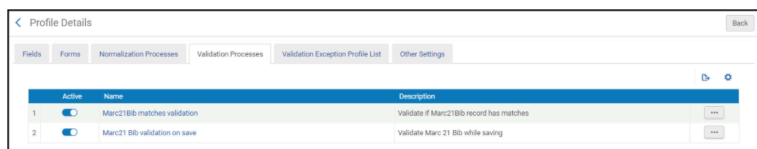
- MARC 21権限一致検証-インポートプロセス中またはMDエディタで権限レコードの一致が実行された場合の検証の処理方法を定義します
- 保存時のMARC 21権限検証-インポートプロファイルを使用してMARCレコードをインポートし、外部リソースを介して目録をコピーし、MDエディタで書誌レコードを保存する場合の検証の処理方法を定義します。

これらのプロセスは編集できますが、新しい検証プロセスを作成することはできません。

プロセスが現在必要ではないが、将来必要になる可能性がある場合は、[有効]列で無効にすることができます。

?証プロセスを編集するには

1. プロファイルの詳細ページの[検証プロセス]タブで、編集する検証プロセスの行の[編集]アクションを選択します([設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定]プロファイルリンクを選択します)。



検証プロセスタブ

検証プロセスの一般情報タブにプロセスの詳細ページが開きます。



検証プロセスの一般情報タブ

2. [検証プロセス]のタブ（一般情報、タスクリスト、タスクパラメーター）を選択して、必要に応じて検証の詳細を編集し、変更する情報にアクセスします。

タスクリストタブでは、次の表で説明する検証タスクを次のように指定できます。

1. [タスクの追加]リンクを使用して追加
2. 行の[削除]アクションを使用して、既存のタスクリストから削除されました
3. 上/下矢印を使用して行の順序を変更することにより、既存のタスクリストで優先順位を変更しました

MARC21書誌メタデータ設定検証タスクの概要および **MARC21**権限メタデータ設定検証タスクの概要の表で説明されている検証タスクは、**Marc21**書誌一致検証、保存時の**Marc21**書誌検証、**Marc21**権限一致検証、および保存時の**Marc21**権限検証

の検証プロセスでそれぞれ利用可能です。

MARC21書誌メタデータ設定検証タスクの概要

検証タスク	説明
MARC21認識フィールド検証	すべてのフィールドがプロファイルによって認識されることを検証します。
MARC21必須検証	必須フィールドの存在を検証します。
MARC21繰り返し可能検証	繰り返し可能なフィールドを検証します。
MARC21固定フィールド位置検証	コントロールフィールドの正当なデータを検証します。
MARC21変数フィールド検証	インジケータの正当なデータを検証します。
サブフィールドの認識検証MARC21	すべてのサブフィールドがプロファイルによって認識されることを検証します。
MARC21必須サブフィールド検証	必須サブフィールドの存在を検証します。
MARC21繰り返し可能サブフィールド検証	繰り返し可能なサブフィールドを検証します。
Marc21BibFindMatchesValidationTask	Marc21Bibは、一致する検証があるかどうかを確認します。

検証タスク	説明
MARC21サブフィールド単語データ検証	単語データを検証します。
代替グラフィック表記の検証	代替グラフィック表記を検証します。
Bib_Headingの典拠形を検証する	書誌の標目が許可されているかどうかを検証します。
ローカル請求番号の一意性の検証 MARC21	<p>このタスクを使用して、ローカル請求番号がリポジリ内のすべての書誌レコードで一意であることを確認します。</p> <p>このタスクでは、〔タスクパラメーター〕タブから次のタスクパラメーター、090、091、092、093、094、095、096、097、098、099、および905を指定できます。</p> <div data-bbox="597 615 1097 705" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>VALIDATE LOCAL CALL NUMBER UNIQUENESS</p> <p>BIB fields for call number validation: 090 091 092 093 094 095 096 097 098 099 -</p> </div> <p>ローカル請求記号の一意性を検証する</p> <p>デフォルトでは、すべての09Xフィールドが指定されます。リストに905を追加することも選択できます（905の\$sを検証します）。</p> <p>ドロップダウンリスト全体を表示するときに、値を選択してチェックマークを削除または追加し、一意性を検証する09Xフィールドを示します。</p> <p>すべての09Xフィールドが選択されているわけではない場合、一意性チェックは他の書誌レコードの同じ09Xフィールドに対して行われます。したがって、たとえば、請求番号検証リストの書誌フィールドで093フィールドを選択すると、検証チェックはリポジリ内の他のすべての書誌093フィールドを比較して、重複した請求番号があるかどうかを判断します。</p> <p>すべての09Xフィールドが選択されている場合、一意性チェックは他の書誌レコードの09Xフィールドに対して行われます。したがって、たとえば、書誌レコードの093フィールドにローカル請求番号が格納されている場合、検証チェックはリポジリ内の他のすべての書誌09Xフィールド（093フィールドだけでなく）の比較を行い、重複する請求番号があるかどうかを判断します。</p> <p>ショートカットとして、09Xフィールドの横にあるxを選択して、リストから削除できます。</p> <p>詳細については、メタデータエディタ (.docxファイル) でレコードを保存するときに090請求番号の一意性を確認する方法を参照してください。</p>
「その他の標準番号」チェックディジットを検証する	<p>MARC21書誌プロファイルを設定する際に、この検証タスクを選択して、フィールド024の次のその他の標準番号IDを検証します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ UPC（第1インジケータ=1） ◦ ISMN（第1インジケータ=2） ◦ IAN（第1インジケータ=3） <p>「その他の標準番号」検証チェックディジット検証タスクを〔タスクリスト〕タブのタスクリストに追加した後、〔タスクパラメータ〕タブを選択し、024フィールドで検証するサブフィールドを特定します。複数のサブフィールドを指定する場合は、コンマで区切り、スペースを入れずにサブフィールドを入力してください。</p>

検証タスク	説明
	<div data-bbox="599 216 1097 392" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>General Information Task List Task Parameters</p> <p>024 - OTHER STANDARD IDENTIFIER CHECK DIGIT</p> <p>1st indicator - 1 Universal Product Code Subfields a,z</p> <p>1st indicator - 2 International Standard Music Number Subfields a,z</p> <p>1st indicator - 3 International Article Number Subfields a,z</p> </div> <p>その他の標準番号検証タスクパラメータ-MARC 21 / KORMARC</p>
ISBNチェックディジットを検証する	<p>この検証タスクを選択して、国際標準図書番号（ISBN）を検証します。</p> <p>ISBN 検証チェックディジット 検証タスクを [タスクリスト] タブのタスクリストに追加したら、[タスクパラメータ] タブを選択し、フィールドとサブフィールドに追加を選択して、検証するフィールド/サブフィールドを識別します。複数のサブフィールドを指定する場合は、コンマで区切り、スペースを入れずにサブフィールドを入力してください。</p> <div data-bbox="599 743 1097 879" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>General Information Task List Task Parameters</p> <p>ISBN Check Digit</p> <p>Field Subfields</p> <p>1 020 a</p> </div> <p>ISBN検証タスクのパラメータ-MARC 21 / KORMARC</p> <div data-bbox="599 972 1097 1108" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>General Information Task List Task Parameters</p> <p>ISBN Check Digit</p> <p>Field Subfields</p> <p>1 010 a</p> </div> <p>ISBN検証タスクのパラメータ-UNIMARC / CNMARC</p>
新しいMARC21書誌の空のフィールドを検証する (これは、KORMARC、UNIMARC、およびCNMARCの書誌メタデータ設定プロファイルでも使用可能です。)	<p>新しいMARC21書誌の空のフィールドを検証タスクを検証タスクリストに追加したら、[タスクパラメータ] タブを選択し、検証する空のフィールドを特定します。</p> <div data-bbox="599 1325 1097 1808" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>General Information Task List Task Parameters</p> <p>VALIDATE THAT THE SELECTED BIBLIOGRAPHIC FIELDS ARE EMPTY</p> <p>Source #1 Field</p> <p>Source #2 Field</p> <p>Source #3 Field</p> <p>Source #4 Field</p> <p>Source #5 Field</p> <p>Source #6 Field</p> <p>Source #7 Field</p> <p>Source #8 Field</p> <p>Source #9 Field</p> <p>Source #10 Field</p> </div> <p>空として検証するフィールド</p> <p>この検証チェックに特別なエラーまたは警告メッセージを設定するには、検証例外プロファ</p>

検証タスク	説明
	<p>イルを作成する必要があります。詳細については、検証例外プロファイルの操作を参照してください。</p> <p>この検証チェックは、更新中の既存のレコードではなく、新しいレコード専用です。</p> <p>検証プロセスを使用する各機能（MDエディタ、API、インポート、注文明細、クイック目録）に対して、検証により〔タスクパラメーター〕タブで指定されたフィールドが空でないことが識別されると、エラーまたは警告メッセージが表示されます。たとえば、MDエディタでは、〔タスクパラメーター〕タブで確認するフィールドとして009が設定されている場合、メッセージは次のように表示されます。</p>  <p>空でないフィールドの検証メッセージ</p>
MARC21資料の検証フォーム	006フィールド（位置0）の資料のフォームがリーダー（LDR）の資料タイプと一致することを検証します。
ISSNチェックディジットを検証する	<p>この検証タスクを選択して、国際標準シリアル番号（ISBN）を検証します。</p> <p>ISSN 検証チェックディジット 検証タスクを〔タスクリスト〕タブのタスクリストに追加したら、〔タスクパラメーター〕タブを選択し、〔フィールドとサブフィールドの追加〕を選択して、検証するフィールド/サブフィールドを特定します。複数のサブフィールドを指定する場合は、コンマで区切り、スペースを入れずにサブフィールドを入力してください。</p>  <p>ISSN検証タスクパラメーター-MARC 21 / KORMARC</p>  <p>ISSN検証タスクのパラメーター - UNIMARC / CNMARC</p>

検証タスク	説明
EDTFの日付/時刻を検証する	<p>この検証タスクを選択して、EDTF標準による日付/時刻の検証を行います。</p> <p>[タスクリスト] タブに EDTFの日付/時刻 を検証するタスクを追加してから、[タスクパラメータ] タブを選択し、 [EDTF レベル] を指定します。そして、検証対象とするフィールド および サブフィールドを [フィールドとサブフィールドを追加] で追加します。複数のサブフィールドを指定する場合は、コンマで区切り、スペースを入れずにサブフィールドを入力してください。</p>  <p>EDTF検証タスクパラメータ</p>
UPCチェックデジットを検証する	<p>UNIMARC 書誌プロフィールを設定する場合、この検証タスクを選択して、ユニバーサル製品コード (UPC) を検証します。</p> <p>UPCチェックデジット検証 検証タスクを [タスクリスト] タブのタスクリストに追加したら、 [タスクパラメーター] タブを選択し、 [フィールドとサブフィールドの追加] を選択して、検証するフィールド/サブフィールドを特定します。複数のサブフィールドを指定する場合は、コンマで区切り、スペースを入れずにサブフィールドを入力してください。</p>  <p>ユニバーサル製品コード検証タスクのパラメーター - UNIMARC / CNMARC</p>
ISMNチェックデジットを検証する	<p>UNIMARC書誌プロフィールを設定している場合、この検証タスクを選択して、国際標準音楽番号 (ISMN) を検証します。</p> <p>ISMNチェックデジットの検証 検証タスクを [タスクリスト] タブのタスクリストに追加したら、 [タスクパラメーター] タブを選択し、 [フィールドとサブフィールドの追加] を選択して、検証するフィールド/サブフィールドを特定します。複数のサブフィールドを指定する場合は、コンマで区切り、スペースを入れずにサブフィールドを入力してください。</p>  <p>国際標準音楽番号検証タスクのパラメーター-UNIMARC / CNMARC</p>
IANチェックデジットを検証する	<p>IANチェックデジットの検証 検証タスクを [タスクリスト] タブのタスクリストに追加したら、 [タスクパラメーター] タブを選択し、 [フィールドとサブフィールドの追加] を選択して、検証するフィールド/サブフィールドを特定します。複数のサブフィールドを指定</p>

検証タスク	説明
	<p>する場合は、コンマで区切り、スペースを入れずにサブフィールドを入力してください。</p>  <p>国際記事番号検証タスクのパラメーター - UNIMARC / CNMARC</p>

MARC21権限メタデータ設定検証タスクの概要

検証タスク	説明
MARC21認識フィールド検証	すべてのフィールドがプロファイルによって認識されることを検証します。
MARC21必須検証	必須フィールドの存在を検証します。
MARC21繰り返し可能検証	繰り返し可能なフィールドを検証します。
MARC21固定フィールド位置検証	コントロールフィールドの正当なデータを検証します。
MARC21変数フィールド検証	インジケータの正当なデータを検証します。
サブフィールドの認識検証MARC21	すべてのサブフィールドがプロファイルによって認識されることを検証します。
MARC21必須サブフィールド検証	必須サブフィールドの存在を検証します。
MARC21繰り返し可能サブフィールド検証	繰り返し可能なサブフィールドを検証します。
MARC21必須 サブフィールド検証	必須データを検証します。
繰り返し不可能優先フィールド権限検証	繰り返し不可能なフィールドを検証します
1xxと4xx権限では同じ値は使用できません。	必須データを検証します。
検証 1xx 4xx 5xx - 同じ下2桁	4xxと5xxの最後の2桁が1xxと同じであることを検証します。
検証言語表示MARC21	言語表示の検証（多言語語彙用）。

3. [一般情報]タブ、[タスクリスト]タブ、および[タスクパラメータ]タブでプロセスの詳細の変更が終了したら、**[保存]**を選択します。

検証例外プロファイルの使用

検証例外プロファイルを使用すると、検証した問題の重大度を判断できます。Almaで問題が発生したときにユーザーの続行をブロックするか、警告のみで続行を許可するかを定義できます。問題が見つかったら、Almaはメタデータエディタの下部にあるパネルにエラーまたは警告メッセージを表示します。

検証例外プロファイルには、[プロファイルの詳細] ページ（[設定メニュー]>[リソース]>[目録]>[メタデータ設定]）をクリックし、プロファイルリンクを選択します）の [検証例外プロファイルリスト] タブからアクセスできます。イン

ポートプロファイルを定義するとき、インポート中に使用される**検証例外プロファイル**を定義します。事前設定済みの**検証例外プロファイル**は次のとおりです。

- **MARC XML書誌インポート** - この例外プロファイルを選択して、インポート中の無効なデータを処理することをお勧めします。
- **保存時にMARC XML書誌メタデータを編]** - この例外プロファイルは、外部リソース（WorldCatやLoCなど）を介して**目録**をコピーするとき、および**メタデータエディタ**で書誌レコードを保存するときに使用されます。

Note

9XXフィールドをネットワークゾーンレコードに追加するときに表示されるエラーメッセージの設定については、[ローカルフィールドがネットワークゾーンレコードに追加されないようにする](#)を参照してください。

検証プロファイル（[検証プロセスの編集](#)を参照）とは異なり、デフォルトの動作を定義し、その動作の例外を定義することもできます。ページの上部セクションでは、デフォルトの重大度を指定します。これは、レコードで見つかったすべての**検証問題**のデフォルトの重大度です。下部のセクションでは、そのデフォルトの**例外**を指定できます。これらは、デフォルトとは逆の方法で処理するルールです。以下のスクリーンショットでは、デフォルトが「警告」に設定されているため、例外リストのすべてがエラーとして扱われます。これは、デフォルトの例外であるためです。

The screenshot shows the 'Validation Severity Profile Exceptions' configuration page. The 'General Information' section includes:
Name: MarcXML Bib Metadata Editing On Save
Description: Sample validation checks while cataloging/saving Marc Bib Records
Default Severity: Warning (selected)
Save Profile Details button

The table below lists 8 validation messages. Red annotations explain that the default severity is 'Warning' and that the listed exceptions are treated as errors.

Message
1 ** is not a valid code for First indicator for field *
2 ** is not a valid code for Second indicator for field *
3 Field ** is not listed in profile
4 Mandatory field * is empty
5 Mandatory field * is missing
6 Mandatory sub-field ** is missing in field *
7 Multiple occurrences were found for non repeatable field *
8 Multiple occurrences were found for non repeatable sub-field ** in field *

このページでは、既存のプロファイルを編集またはコピーすることもできます。作成したプロファイルは削除できます。

検証例外プロファイルの追加

検証例外プロファイルを追加するには

1. [プロファイルの詳細] ページ（[設定メニュー > リソース > 目録 > メタデータ設定] でプロファイルリンクを選択）で、[検証例外プロファイルリスト] タブを選択します。

[検証重大度プロファイルの追加] を選択します。

Note

既存の検証例外プロファイルをコピーして変更し、新しいプロファイルを作成するには、行の【コピー】アクションを選択し、要件に一致するように重複プロファイルを変更します（[検証例外プロファイルの編集](#)を参照）。

2. 検証例外プロファイルに次を入力します。
 - 追加する重大度検証プロファイルの名前（必須）と説明
 - 【エラー】または【警告】を選択して、デフォルトの重大度を示します。デフォルトの重大度は、【フィールド】タブで定義されたフィールドレベルパラメーターの違反（必須、繰り返し不可など）を警告（オーバーライド可能）またはエラー（解決する必要がある）として扱うかどうかを決定します。
3. 【検証重大度プロファイルの追加】を選択します。プロファイルは、検証例外プロファイルのリストに追加されます。検証例外プロファイルへのメッセージの追加については、[検証例外プロファイルの編集](#)を参照してください。

検証例外プロファイルの編集

?証例外プロファイルを編集するには

1. プロファイルの詳細ページの【検証例外プロファイルリスト】タブ（【設定メニュー】>【リソース】>【目録】>【メタデータ設定】からプロファイルリンクを選択）で、更新する検証例外プロファイルの行の【編集】アクションを選択します。
2. 【一般情報】領域で、必要に応じて名前、説明、またはデフォルトの重大度を変更します。
3. メッセージ領域で、行の【削除】アクションを選択して、不要なメッセージを削除します。
4. 【検証の重大度の例外を追加】を選択し、【メッセージ】ドロップダウンリストから検証の例外メッセージを選択します。
【メッセージ】ドロップダウンリストのメッセージの構文は設定できません。
5. 【検証の重大度の例外を追加】を選択します。
6. 【プロファイルの詳細を保存】を選択し、【戻る】を選択します。

その他の設定

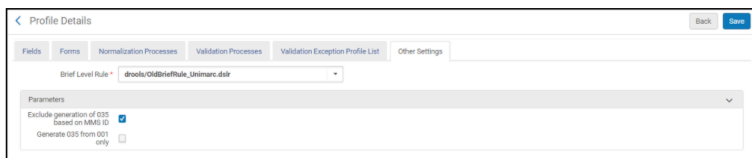
メタデータ設定の〔プロフィールの詳細〕ページのその他の設定タブ（〔設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定〕からプロフィールリンクを選択）

- ・〔簡易レベルルール〕を選択します（[メタデータ設定でブリーフレベルルールのデフォルトを設定するを参照](#)）
- ・レコードを保存するときに特定の方法で特定のフィールドを処理するパラメーターを選択します（[他の設定パラメーターの設定を参照](#)）。

その他の設定パラメーターの設定

レコードを保存するときに003、035、および880 \$6フィールドを処理するためのその他の設定パラメーターが提供されています。これらのパラメーターは次の方法で使用します。

- ・003削除を無効にする - レコードを保存するときに003フィールドの内容を維持するには、このパラメーターを選択します。このパラメーターが選択されていない場合、レコードが保存される際にデフォルトで、内容を001フィールドのMMS IDと連結して003フィールドを削除し、035フィールドに配置される（OCoLC）35397863のようなIDを作成します。
- ・MMS IDに基づいて035の生成を除外する - レコードを保存するときに、035フィールドの自動生成をオフにし、003フィールドの内容と001フィールドのMMS IDを連結しないようにするには、このオプションを選択します。
- ・001からのみ035を生成 - （UNIMARC書誌および典拠メタデータ設定プロフィールのみ）レコードを保存するときに、001フィールド（MMS ID）の内容から035フィールドを作成するには、このオプションを選択します。



UNIMARCのメタデータ設定のその他の設定タブ

- ・代替グラフィック表記スクリプトコードの追加 - このパラメーターを使用して、880の作成時に\$6のリンク先スクリプト言語指示を追加または省略します。このパラメータを選択すると、880フィールドの\$6にスクリプト言語インジケータが追加されます。詳細については、[書誌レコード内のリンクされた880フィールドの操作](#)を参照してください。

UNIMARCフィールド、正規化、検証の操作

AlmaがMARC 21に提供するサポートと同様に、AlmaはUNIMARC検証と正規化をサポートします。Almaは、レコードのインポート時およびMDエディタでのレコードの操作時に、検証および正規化プロフィールの設定を使用します。

UNIMARCでは、サブフィールドを持つ固定フィールド（1XX）に追加の検証機能が実装されています。

UNIMARC書誌レコードの正規化のために、デフォルトの正規化プロセスが準備されています。詳細については、[タスクリストオプション](#)の表を参照してください。

UNIMARCメタデータプロフィールには、標準のUNIMARCローカルフィールドが含まれています。具体的には、9XXローカルフィールドはUNIMARCプロフィールで使用できます。これには、サブフィールドa〜zおよび0〜9に加えて、第1と第2インジケータの空白と0〜9の値が含まれます。

UNIMARC正規化タスクを使用するには

1. [メタデータ設定リスト] ページ ([設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定]) で [UNIMARC書誌リンク] を選択します。[プロフィールの詳細] ページが表示されます。
2. [正規化プロセス] タブを選択します。次のデフォルトの正規化プロセスが [正規化プロセス] タブに表示されます。
 - UNIMARC書誌の初期正規化
 - 保存時のUNIMARC書誌正規化
 - UNIMARC書誌の再シーケンス
 - UNIMARC書誌の再シーケンスおよび空白フィールドのクリア
3. 正規化プロセスのいずれかの行アクションリストから [編集] を選択し、[タスクリスト] タブを選択して、提供されているUNIMARCタスクを表示します。

詳細については [SBNまたはUNIMARCのタスクUnimarcBibAdd005Taskの設定](#) を参照してください。

4. 終了したら、[保存] を選択してください。

メタデータ設定プロフィールで使用可能な9XX UNIMARCフィールドの例を表示するには

1. [メタデータ設定リスト] ページ ([設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定]) で [UNIMARC書誌リンク] を選択します。[フィールド] タブで [プロフィールの詳細] ページが開きます。
2. 9XXフィールドの1つを見つけます。
3. 行アクションリストから [カスタマイズ] を選択して、カスタマイズに使用可能なサブフィールドとインジケータを表示します。

< Field Details
Cancel Save

UNIMARC Bibliographic

Family	UNIMARC	Type	Bibliographic
Usage	BIB_MMS		
Tag	950	Type	Variable
Repeatable	Yes		
Mandatory	<input type="radio"/> Yes <input checked="" type="radio"/> No		
Description	<input type="text" value="LOCAL FIELD"/>		
Help URL	<input type="text"/>		

Subfields
>

First Indicator
>

Second Indicator
>

Positions
>

UNIMARCフィールドの詳細

- サブフィールド、ファーストインジケータ、およびセカンドインジケータセクションを展開して、カスタマイズ可能なオプションを表示します。

UNIMARC?証フィールドの?更を表示するには

- 〔メタデータ設定リスト〕ページ（〔設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定〕）で〔UNIMARC書誌リンク〕を選択します。〔フィールド〕タブで〔プロファイルの詳細〕ページが開きます。
- 〔1XX：コード化情報ブロック〕オプションを選択して、〔フィールド〕タブでフィルタします。
- フィールド100の場合、行アクションリストから〔表示〕を選択します。〔フィールドの詳細〕ページが表示されません。
- 〔位置〕セクションを展開して、検証されている位置を表示します。

次の位置検証がUNIMARCに追加されました。

- ファイルに入力された日付
- 発行日の種類
- 発行日1
- 発行日2

- 終了したら、〔メタデータ設定リスト〕ページに戻るまで〔戻る〕を選択してください。

UNIMARCローカル典拠レコードの管理

マルチフォーマット図書館ソリューションとして、Almaは典拠制御を目的としたUNIMARC典拠レコードの使用をサポート

トしています。Almaは、UNIMARCローカル典拠レコードを管理する（およびMDエディタのF3機能を使用して書誌レコードに関連付ける）機能を提供します。〔メタデータ設定リスト〕ページから、ローカル典拠を管理するための独自のUNIMARC典拠プロファイルを作成できます。さらに、UNIMARCレコードをインポートするように設計された典拠レコードインポートプロファイルを作成できます。

UNIMARCローカル典拠プロファイルを作成するには

1. 〔メタデータの設定リスト〕ページ（〔設定メニュー>リソース>目録>メタデータの設定〕）内の〔ローカル典拠を追加〕を選択します。〔ローカル典拠の追加〕ポップアップウィンドウが表示されます。
2. UNIMARCローカル典拠プロファイルに必要なパラメータを完了します。
 - 〔名前〕 - プロファイルのローカル典拠レジストリページに表示する単語名を入力します。
 - 〔コード〕 - たとえば、インポートプロファイルを設定するときに表示する単語コード名を入力します。
 - 〔ファミリー〕 - ドロップダウンリストからUNIMARCを選択します。
 - 〔タイプ〕 - ドロップダウンリストから次のタイプのいずれかを選択します。
 - 〔件名〕
 - 〔著者〕
 - 〔著者と件名〕
 - 〔分類〕
 - 〔ダイレクトIDプレフィックス〕 - IDプレフィックスを使用する場合は入力します。
 - 〔多言語〕 - ドロップダウンリストから〔はい〕または〔いいえ〕を選択します。
3. 〔追加して閉じる〕を選択します。作成したローカル認証レジストリは、〔ローカル認証レジストリ〕ページのリストに表示されます。
4. 〔保存〕を選択してください。〔メタデータ設定リスト〕ページのリストにローカル認証プロファイルが表示されます。
5. 〔UNIMARC典拠〕リンクを選択して、詳細プロファイルページを開き、MARC 21と同様のフィールド、正規化、検証を設定します。
6. プロファイルの詳細情報を変更する完了したら〔配置〕を選択します。

UNIMARC典拠インポートプロファイルを作成するには

[インポートプロファイルの管理](#)を参照してください。

KORMARCフィールド、正規化、および検証の操作

AlmaがMARC 21に提供するサポートと同様に、AlmaはKORMARC検証と正規化をサポートします。Almaは、レコードのインポート時およびMDエディタでのレコードの操作時に、検証および正規化プロファイルの設定を使用します。

KORMARC書誌レコードの正規化のために、デフォルトの正規化プロセスが準備されています。

KORMARC正規化タスクを使用するには

1. 〔メタデータ設定リスト〕ページを開きます（〔設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定〕）。
2. 〔KORMARC書誌〕リンクを選択します。〔プロファイルの詳細〕ページが表示されます。

3. [正規化プロセス] タブを選択します。次のデフォルトの正規化プロセスが [正規化プロセス] タブに表示されません。
 - 保存時にKORMARC書誌を正規化
 - KORMARC書誌の再シーケンス
 - KORMARC書誌の再シーケンスおよび空白フィールドのクリア
4. 正規化プロセスのいずれかの行アクションリストから [編集] を選択し、[タスクリスト] タブを選択して、提供されているKORMARCタスクを表示します。
5. 終了したら、[保存] を選択してください。

CNMARCフィールド、正規化、および検証の操作

AlmaがMARC 21に提供するサポートと同様に、AlmaはCNMARCフィールドの設定オプション、書誌および典拠レコードの正規化と検証を提供します。詳細については、[プロファイルの詳細の編集](#)および[典拠レコードの操作](#)を参照してください。

Almaは、レコードのインポート時およびMDエディタでのレコードの操作時に、検証および正規化プロファイルの設定を使用します。

CNMARC書誌レコードの正規化のために、デフォルトの正規化プロセスが準備されています。

CNMARC正規化タスクを使用するには

1. [メタデータ設定リスト] ページを開きます ([設定メニュー > リソース > 目録 > メタデータ設定])。
2. [CNMARC書誌] リンクを選択します。[プロファイルの詳細] ページが表示されます。
3. [正規化プロセス] タブを選択します。次のデフォルトの正規化プロセスが [正規化プロセス] タブに表示されません。
 - CNMARC書誌の初期正規化
 - 保存時にCNMARC書誌を正規化
 - Z39.50/SRU検索におけるCNMARC書誌の正規化
 - CNMARC書誌の再シーケンス
 - CNMARC書誌の再シーケンスおよび空白フィールドのクリア
4. 正規化プロセスのいずれかの行アクションリストから [編集] を選択し、[タスクリスト] タブを選択して、提供されているCNMARCタスクを表示します。正規化タスクの説明については、[タスクリストオプション](#)の表を参照してください。
5. 終了したら、[保存] を選択してください。

MODSフィールド、正規化、および検証の操作

AlmaがMARCに提供するサポートと同様に、AlmaはMODSの検証および正規化のサポートを提供します。Almaは、レコードのインポート時およびMDエディタでのレコードの操作時に、検証および正規化プロファイルの設定を使用します。

MODS書誌レコードの正規化のために、デフォルトの正規化プロセスが作成されています。

MODS正規化タスクを操作するには：

1. [メタデータ設定リスト] ページを開きます ([設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定])。
2. **MODS**リンクを選択します。[プロフィールの詳細] ページが表示されます。
3. [正規化プロセス] タブを選択します。次のデフォルトの正規化プロセスが [正規化プロセス] タブに表示されません。
 - 書誌をコレクションに追加する
 - 保存時のMODS書誌正規化
 - ディスカバリMODSから書誌レコードを抑制する
4. 正規化プロセスのいずれかの行アクションリストから [編集] を選択し、[タスクリスト] タブを選択して、提供されているMODSタスクを表示します。
5. プロセスにタスクを追加するには、「タスクの追加」を選択します。次の表に、使用可能なMODSタスクを示します：

タスク	説明
ModsDroolNormalization	タスクパラメータタブから実行する正規化ルールを選択します。
addBibToCollectionNormalizationTask	書誌レコードをコレクションに追加する
MmsTagSuppressed	MMS MODSの抑制フラグを設定します
移行タスクを処理する	書誌Bレコードのメタデータからハンドルをレコードのハンドル識別子フィールドにコピーします。
MMS IDを使用してレコード識別子を更新する	MMS IDを使用してレコード識別子を更新します。 recordIdentifier 要素のレコード変更チェックボックスを選択して、recordIdentifier 要素の recordinfoNote 要素の変更を記録します。

6. 追加するタスクを選択します。
7. 完了したら、追加して閉じるを選択して保存を選択します。

Dublin Coreフィールド、正規化、および検証の操作

AlmaがMARCに提供するサポートと同様に、AlmaはDublin Core検証および正規化のサポートを提供します。Almaは、レコードのインポート時およびMDエディタでのレコードの操作時に、検証および正規化プロフィールの設定を使用します。

Dublin Core書誌レコードの正規化のために、デフォルトの正規化プロセスが準備されています。

Dublin Coreの正規化タスクを使用するには

1. [メタデータ設定リスト] ページを開きます ([設定メニュー>リソース>目録>メタデータ設定])。
2. [認定Dublin Core] リンクを選択します。[プロフィールの詳細] ページが表示されます。
3. [正規化プロセス] タブを選択します。次のデフォルトの正規化プロセスが [正規化プロセス] タブに表示されません。
 - 書誌をコレクションに追加する
 - 保存時の認定DC書誌の正規化
 - Z39.50/SRU検索における認定Dublin Core書誌の正規化

4. 正規化プロセスのいずれかの行アクションリストから [編集] を選択し、[タスクリスト] タブを選択して、提供されているDublin Coreタスクを表示します。
5. 終了したら、[保存] を選択してください。

DCアプリケーションプロファイルの操作

Almaは、カスタマイズ可能な2つのDublin Coreプロファイルを提供し、ユーザーはこれらにローカルフィールドを追加できます。これらのローカルフィールドは、機関で必要とされ、標準のDublin Core形式でサポートされていないメタデータを含めるのに使用できます。

設定するDublin Coreアプリケーションプロファイルは、レコード形式を選択するオプションがある場合にいつでも利用できます。

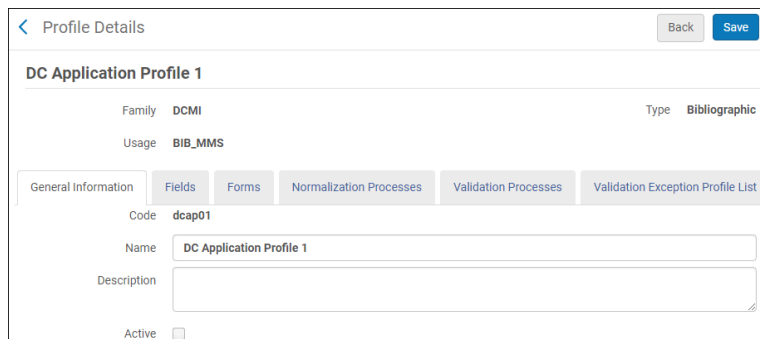
- MDエディタで、Dublin Coreレコードにフィールドを追加するとき（[リソース > メタデータエディタを開く]）。
- [レコード形式] フィールドで、[レコード形式] フィールドに表記を追加する場合（[リソース > デジタル表記を追加]）。
- [レコード形式] フィールドで、新しいコレクションを追加するとき（[リソース > コレクションの管理]）。
- インポートプロファイルを設定するときの [ターゲット形式] フィールド（[リソース > インポートプロファイルの管理]）。
- [フィールドを含める書誌レコード形式] で、デジタルタイトルのエクスポートジョブを実行する場合（[管理 > ジョブの実行]）。
- Almaに表示されるメタデータを設定するエリア
 - 検索インデックスで、Almaリポジトリで検索可能なフィールドを設定します（[設定 > リソース > 検索設定 > 検索索引]）。
 - [配信プロファイルメタデータ] で、デジタルビューアでデジタルコンテンツを表示するときに表示されるメタデータフィールドを設定します（設定 > フルフィルメント > 配信プロファイルメタデータ）。

DCアプリケーションプロファイルは、アクティブなレジストリで設定されると、プロファイルのリストに表示されます。

Active Profiles		
Profile	Family	Type
1 GND Authority	MARC21	Authority
2 MARC21 Authority	MARC21	Authority
3 MARC21 Bibliographic	MARC21	Bibliographic
4 MARC21 Holding	MARC21	Holding
5 Qualified Dublin Core	DCMI	Bibliographic
6 DC Application Profile 1	DCMI	Bibliographic
7 DC Application Profile 2	DCMI	Bibliographic

DCアプリケーションプロフィール - 一般情報タブ

DCアプリケーションプロフィールを選択して、プロフィールの詳細ページを表示します。他のプロフィールで使用可能なタブ（[メタデータプロフィールの詳細の表示](#)を参照）に加えて、[一般情報] タブが表示されます。



DCアプリケーションプロフィールの一般情報タブ

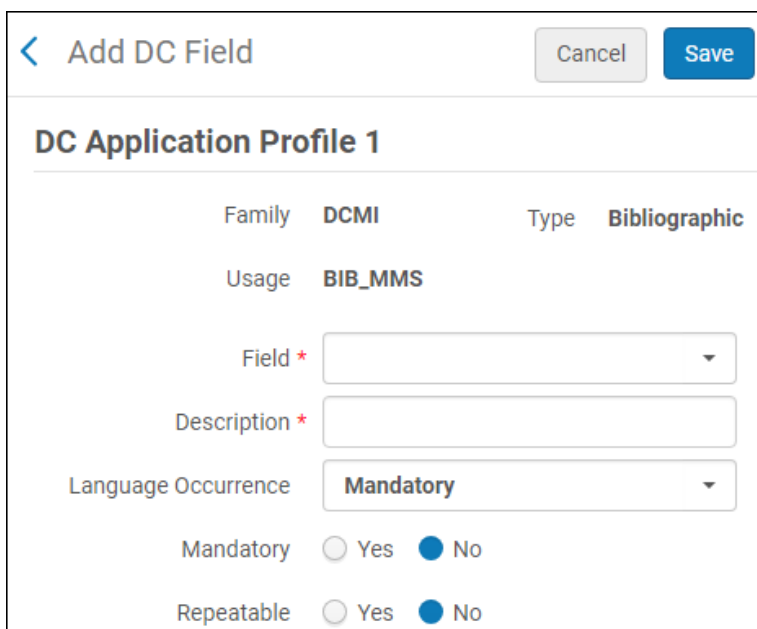
プロフィールの名前と説明を入力できます。[有効化] を選択してプロフィールを有効化します。

DCアプリケーションプロフィールへのフィールドの追加

DCアプリケーションプロフィールにローカルフィールドを追加できます。

[プロフィールの詳細] ページの [フィールド] タブで、[フィールドの追加] を選択します。表示されるオプションのいずれかを選択します。

- [標準] - 標準の認定DCフィールドを追加します。以下が表示されます。



標準フィールドを追加

1. [フィールド] ドロップダウンリストから、認定DCフィールドを選択します。

2. フィールドの**説明**を入力します。
 3. 言語オカレンスを選択します。
 4. フィールドを必須にする場合は、**[はい/いいえ]** を選択します。
 5. フィールドを繰り返し可能にする場合は、**[はい/いいえ]** を選択します。
- ローカル - ローカルDCフィールドを追加します。以下が表示されます。

< Add DC Field
Cancel Save

DC Application Profile 1

Family	DCMI	Type	Bibliographic
Usage	BIB_MMS		
Code *	<input type="text"/>		
Name *	<input type="text"/>		
Description *	<input type="text"/>		
Language Occurrence	Mandatory		
Refines	<input type="text"/>		
Mandatory	<input type="radio"/> Yes	<input checked="" type="radio"/> No	
Repeatable	<input type="radio"/> Yes	<input checked="" type="radio"/> No	
Private	<input type="radio"/> Yes	<input checked="" type="radio"/> No	

ローカルフィールドを追加

1. [コード] フィールドから、ローカルDCフィールドのコードを選択します。
2. ローカルDCフィールドの名前を入力します。
3. ローカルDCフィールドの説明を入力します。
4. 言語オカレンスを選択します。
5. [絞り込み] フィールドから、エクスポート時にローカルフィールドの値を含む**単純なDCフィールド**を選択できます。
6. フィールドを必須にする場合は、**[はい/いいえ]** を選択します。
7. フィールドを繰り返し可能にする場合は、**[はい/いいえ]** を選択します。
8. フィールドをプライベートにする場合は、**[はい/いいえ]** を選択します。**[はい]** を選択すると、フィールドはエクスポートされません。(ただし、索引は作成されます)

フィールドがプロファイルに追加されます。

Note

- ローカルフィールドを構成できるすべてのプロファイル(DCAP1、DCAP2、ETD)全体で、合計50個のローカルフィールドを追加できます。

-
- 各ローカルフィールドは、すべてのプロファイルにわたって1回だけ構成します。つまり、複数のプロファイルで同じローカルフィールドコードを繰り返さないでください。
-

GND典拠プロファイルの使用

GNDプロファイルは、AlmaがGND典拠レコードとよりよく統合できるようにするものです。この機能は次のとおりです。

- GNDレコードを見つけやすくする検索インデックス ([GND典拠検索索引マッピング](#)セクションを参照)
- 目録化をサポートするフィールド/サブフィールドの定義

GND典拠プロファイルは、レコードを目録化し、GNDに投稿する機関にとって特に重要です。GND典拠レコードをAlma MDエディタで目録化する際、GND典拠プロファイルは次の機能から、GNDへの投稿をサポートします。

- 必須の定義を含む、定義済みのすべてのGNDフィールド
- GND語彙制御が配置済み
- 特定の正規化ルール

MARC 21書誌がアクティブレジストリとして設定されている機関の場合、MARC 21典拠とGND典拠の両方のプロファイルオプションが、[メタデータ設定リスト] ページ ([[設定メニュー](#) > [リソース](#) > [目録セクション](#) > [メタデータ設定](#)]) で利用できます。

[フィールド] タブの設定可能なフィールドと、正規化および検証プロセスは、GND標準に固有のもので、

GNDインデックスの詳細については、[検索索引の設定](#)を参照してください。

MARC 21所蔵プロファイルの操作

MARC 21所蔵プロファイルの操作は、書誌プロファイルおよび典拠プロファイルの操作に似ています。これらはすべて、次のタブで設定オプションを管理します。

- [フィールド]
- [正規化プロセス]
- [検証プロセス]
- [検証例外プロファイルリスト]

これらの違いは、管理されている (正規化および検証された) フィールドに関係しています。類似性があるため、プロファイル設定の**MARC 21所蔵**リンクを使用する場合の [メタデータ設定] プロファイルのナビゲーションの詳細な手順については、上記の表示、編集、および設定セクションを参照してください ([[設定メニュー](#) > [リソース](#) > [目録セクション](#) > [メタデータ設定](#)]) 。

MARC 21所蔵プロファイルプロセスオプションについては、以下の表を参照してください。

プロセス名	説明
正規化プロセス	
書誌からのMARC 21所蔵の正規化	<p>このプロセスは、書誌レコードからMARC 21所蔵を正規化するために使用されます。このプロセスを編集すると、[タスクリスト] タブのプロセスリストプールセクションに次のプロセスオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 852フィールドの正規化 • MarcDroolNormalization • MarcXSLNormalization • marc21HoldingClearEmptyFieldsTask • marc21HoldingResequeneceTask • 866/7/8タスクによるMARC21所蔵展開 • 863/4/5タスクによるMARC21所蔵の展開 • MARC21所蔵修正001フィールド
保存時にMARC21所蔵を正規化	<p>このプロセスは、所蔵レコードがMDエディタに保存されるときに、MARC 21所蔵レコードを正規化するために使用されます。このプロセスを編集すると、[タスクリスト] タブのプロセスリストプールセクションに次のプロセスオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 852フィールドの正規化。フィールド852の請求番号の値は、既に存在する場合、保存時に更新されないことに注意してください。 • MarcDroolNormalization • MarcXSLNormalization • marc21HoldingClearEmptyFieldsTask • marc21HoldingResequeneceTask • 866/7/8タスクによるMARC21所蔵展開 • 863/4/5タスクによるMARC21所蔵の展開 • MARC21所蔵修正001フィールド
MARC21所蔵の再シーケンスおよび空白フィールドのクリア	<p>このプロセスは、空のフィールドを並べ替えてクリアするときに使用されます。このプロセスを編集すると、[タスクリスト] タブのプロセスリストプールセクションに次のプロセスオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 852フィールドの正規化 • MarcDroolNormalization • MarcXSLNormalization • marc21HoldingClearEmptyFieldsTask • marc21HoldingResequeneceTask • 866/7/8タスクによるMARC21所蔵展開 • 863/4/5タスクによるMARC21所蔵の展開 • MARC21所蔵修正001フィールド
検証プロセス	
保存時にMARC21所蔵を検証	<p>このプロセスは、所蔵レコードがMDエディタで保存されるときに、所蔵レコードの内容を検証するために使用されます。[編集] を選択して、検証プロセスを設定します。</p> <p>一般情報タブ</p>

プロセス名	説明
	<p>〔一般情報〕タブから、検証プロセス保存時にMARC 21所蔵を検証のステータスを有効または無効に設定できます。</p> <p>タスクリストタブ</p> <p>〔プロセスリストプール〕セクションの〔タスクリスト〕タブには、次のプロセスオプションが用意されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MARC 21認識フィールド検証 • MARC 21必須検証 • MARC 21繰り返し可能検証 • MARC 21所蔵固定フィールド位置検証 • MARC 21フィールド変数検証 • MARC 21認証サブフィールド検証 • MARC 21サブフィールド必須検証 • MARC 21サブフィールド繰り返し可能検証 • MARC 21所蔵の配架場所と図書館検証 • MARC 21所蔵重複検証 • 請求番号と受入番号の検証 • MARC 21所蔵その他のタイトル重複検証 <p>MDエディタで保存する際に所蔵レコードの検証を実行するプロセスを〔プロセスリストプール〕から選択し（〔選択に追加〕を選択）、〔選択プロセス〕セクションのプロセスに優先順位を付けます。</p> <p>タスクパラメータタブ</p> <p>〔タスクリスト〕タブで〔MARC 21所蔵その他のタイトル重複検証〕プロセスを選択すると、〔タスクパラメーター〕タブに〔異なる場所の重複する請求番号をチェックする〕チェックボックスが表示されます。このチェックボックスを選択すると、異なる場所の所蔵レコードで検証チェックが実行されます。このチェックボックスが選択されていない場合、検証チェックは現在の場所の所蔵レコードに対してのみ実行されます。</p>
<p>検証例外プロファイルリスト</p>	
	<p>例外検証プロファイルは、検証による問題の重大度を判断するために使用されます。問題が見つかったら、エラーまたは警告メッセージが表示されます。</p> <p>MARC 21所蔵プロファイルを設定すると、次に示すような事前定義済みのプロファイルが提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 〔保存時にMarcXML所蔵メタデータを編集〕 <p>検証プロファイルとは異なり、〔重大度検証プロファイルの追加〕を選択して、追加の例外（重大度）プロファイルを定義できます。</p> <p>次の重大度メッセージを設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しい図書館と配架場所：{LIBRARY-CODE}\{Location}は検索範囲にありません（以下の手順の例を参照してください） • {INDICATOR-VALUE}は、フィールド{FIELD}の第1インジケータの有効なコードではありません • {INDICATOR-VALUE}は、フィールド{FIELD}の第2インジケータの有効なコードではありません • {POSITION-VALUE}は、フィールド{FIELD}の位置{POSITION}の有効なコードではありません • 受入番号は必須フィールドです。

プロセス名	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • 受入番号は、この場所内において固有のものではありません。 • 請求番号の自動生成に失敗しました。選択した請求番号タイプに適した書誌レコードに値がありません • 請求番号が無効です。 • フィールド{FIELD}はプロファイルリストに含まれていません • フィールド{0}は空欄である必要があります • 書誌MMS ID : {MMS-ID}には、別のタイトルの所蔵がすでに存在します。 • この場所の別のタイトルの所蔵は書誌MMS ID : {MMS-ID}に対してすでに存在します。 • この配架場所に タイトル の所蔵が既に存在します。 • 図書館は必須フィールドです • 図書館{LIBRARY-CODE}は機関に存在しません。 • 配架場所は必須フィールドです。 • 必須フィールド {FIELD}が空欄です。 • 必須フィールド {FIELD}が見つかりません。 • 必須サブフィールド 「{SUB-FIELD}」 が、フィールド{FIELD}で見つかりません。 • フィールド{FIELD}の第1インジケータのデータが見つかりません。 • フィールド{FIELD}の第2インジケータのデータが見つかりません。 • フィールド{FIELD}の資料タイプのデータが見つかりません。 • フィールド{FIELD}の位置{POSITION}にデータが見つかりません。 • 繰り返し不可能なフィールド{FIELD}で複数のオカレンスが見つかりました。 • 繰り返し不可能なフィールド{FIELD}内のサブフィールド 「{SUB-FIELD}」 に複数のフィールドが見つかりました。 • 元の図書館および配架場所 : {LIBRARY-CODE}{Location}は検索範囲にありません。 • 冊子配架場所{LOCATION}は図書館{LIBRARY-CODE}に属しません。 • レコードに ({MATCHES-ANOUNT}) 個の一致が見つかりました。 • サブフィールド 「{SUB-FIELD} is not listed in profile for field {FIELD}」 <p>範?外の図書館/配架場所の「MarcXML所?メタデータを編集」プロファイルに重大度?検証例外を追加するには</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アクションのリストから [編集] を選択して、「保存時にMarcXML所蔵メタデータを編集」検証例外プロファイルを変更します。 2. [検証の重大度の例外を追加] を選択します。 3. [メッセージ] ドロップダウンリストから、[新しい図書館と配架場所 : {LIBRARY-CODE}{Location}は範囲外です] を選択します。 4. LIBRARY-CODEおよびLOCATIONオプションにアスタリスクを入力します。 5. [検証の重大度の例外を追加] を選択します。

プロセス名	説明
	<p>6. [エラー] を選択します。</p> <p>7. [プロフィールの詳細を保存] を選択</p> <p>このプロフィールのセットアップでは、システムはユーザーの検索範囲をチェックし、このプロフィール定義で範囲外の図書館と配架場所と、範囲外のはすべてエラーとなりブロックされます。</p>

MDエディタ内のグローバル典拠の表示とアクセスの管理

Note

このセクションで説明する機能は、ローカル典拠のために、Ex Librisによって典拠使用ポリシーを設定されている機能に向けたものです。

システムが Ex Libris によってローカル典拠レコードを操作するように構成されている場合、グローバル典拠レコードの拡張としてローカルレコードを作成するために、MDエディタで表示および/またはアクセスできるグローバル典拠を制御できます。これは、[メタデータ構成リスト] ページ ([設定メニュー] > [リソース] > [目録] セクション > [メタデータ構成]) の [典拠語彙] テーブルの [ローカルで管理] 表示を介して行われます。MDエディタで使用する典拠レコードオプションの表示は、このページでカスタマイズできます。システムでローカル典拠レコードが操作できるように設定されている場合、[メタデータ設定リスト] ページの典拠単語セクションには、次の列が追加されます。

- ローカルで管理

[ローカルで管理] 列を使用すると、MDエディタに表示する典拠単語を特定できます。これを行うには、この列の単語を有効化または無効化します。

- コミュニティで管理

[コミュニティで管理] 列は、コミュニティゾーンで維持されている単語を識別します。この列は情報提供のみを目的としています。この列の単語行を有効化または無効化するオプションはありません。

Vocabulary Name	Code	Type	Family	Description	Managed Locally	Managed in Community	Authority Heading Rule
1 Autoridades - catálogo de la BNE	EMENE	NAMES_AND_SUB...	MARC21	-	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	...
2 BARE	BARE	NAMES_AND_SUB...	MARC21	-	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	...
3 BK Basicclassification Classification au...	BKL	SUBJECT	MARC21	-	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	...
4 BNF	FRBNF	NAME	UNIMARC	-	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	...
5 BNF	FRBNF	NAME	MARC21	-	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	...
6 CSH	CSH	SUBJECT	MARC21	Canadian Subject Headings (CSH)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	...
7 FAST	FAST	SUBJECT	MARC21	FAST (Faceted Application of Subject Terminology) - OCLC	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	...
8 German Classification Method	RVK	CLASSIFICATION	MARC21	Regensburg Classification System (RVK) includes parts of the sheet marks which individualizes a gov...	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	...
9 German National Library Names and Subjects	GND	NAMES_AND_SUB...	MARC21	Subject and Names Headings for books, serials, and other types of	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	...

ローカルおよびコミュニティゾーンが管理する単語

MDエディタに表示するオプション数を、利用可能なすべてのオプションから、一般的に使用される典拠単語オプションに制限したい機関は、[ローカルで管理] 列でこれを行うことができます。

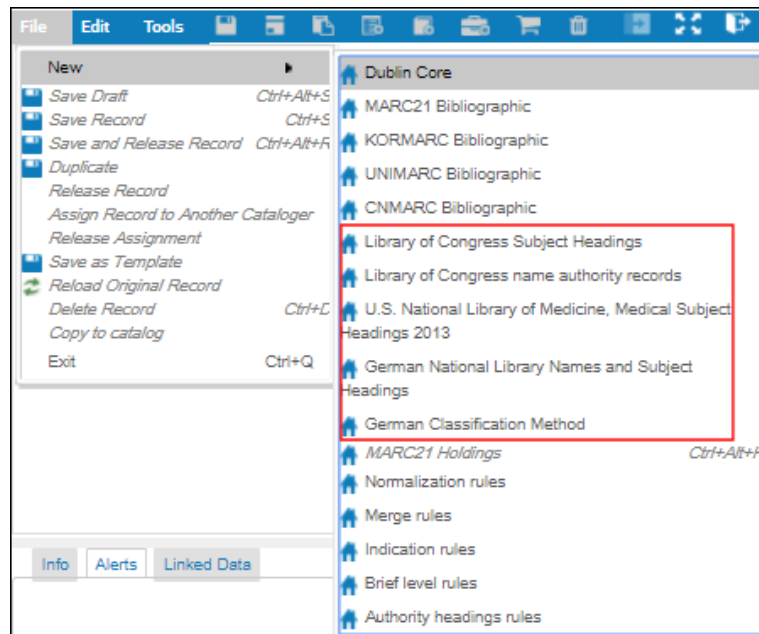
MDエディタに加えて、[ローカルで管理] 列で行った選択により、インポートプロフィールに表示される典拠単語も決まります。特にこれらの選択は次の領域に影響します。

- MDエディタの〔テンプレート〕タブと〔レコード〕タブ
- MDエディタの〔ファイル>新規〕レコードオプション
- 〔インポートプロファイルの詳細〕ページのオプションの〔単語コード〕パラメータのドロップダウンリスト

MDエディタに表示されるグローバルおよびローカル典?単語を?更するには

1. 〔メタデータ設定リスト〕ページを開きます（〔設定メニュー>リソース>目録セクション>メタデータ設定〕）。〔メタデータ設定リスト〕ページが表示されます。<

MDエディタの〔ファイル>新規〕オプションリストには、メタデータ設定で〔ローカルで管理〕として識別された単語オプションが表示されます。



MDエディタの典拠単語オプション

2. 〔ローカルで管理〕列の単語を有効化して、MDエディタ（およびインポートプロファイル）に表示する単語を特定します。

語彙の制御レジストリの設定

語彙制御レジストリを設定するには、次のいずれかの役職が必要です。

- 目録管理者
- 統括システム管理者

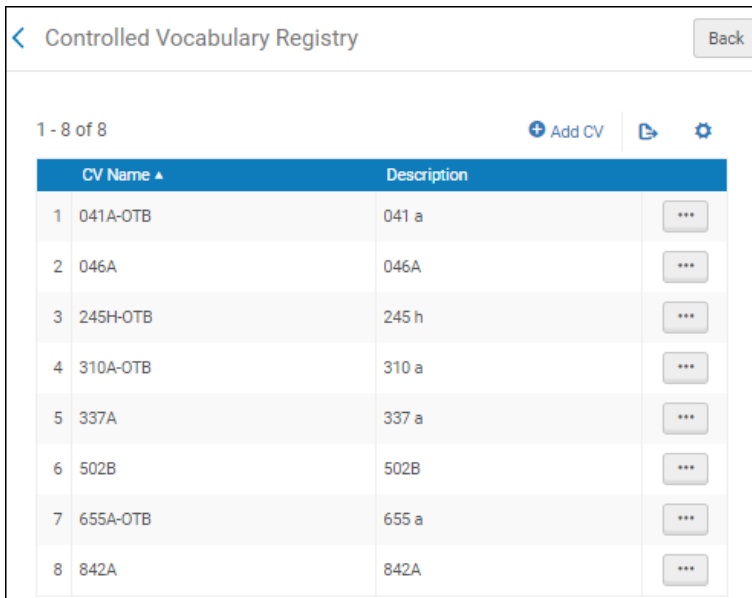
Almaは、語彙制御（そのサブフィールドの許容値のリスト）に基づいたサブフィールド値の検証をサポートしています。Almaは、いくつかの事前定義済みの（out-of-the-box, OTB）語彙制御を提供し、単語を追加することもできます。

語彙制御（CV）を実装するには

1. 語彙制御を作成します。
2. 語彙制御を特定のMARC21サブフィールドに割り当てます。

[フィールドの編集](#)の手順と、フィールドオプションの編集を説明する手順を参照してください。

[メタデータ設定リスト] ページ ([設定メニュー>リソース>目録>語彙制御レジストリ]) から語彙制御 (CV) を設定します。



The screenshot shows the 'Controlled Vocabulary Registry' interface. It features a table with 8 rows of entries. Each row contains a CV Name and a Description, with a three-dot menu icon to the right of each entry. The table is titled '1 - 8 of 8' and includes buttons for '+ Add CV', a share icon, and a settings icon. A 'Back' button is located in the top right corner.

CV Name	Description	
1 041A-OTB	041 a	...
2 046A	046A	...
3 245H-OTB	245 h	...
4 310A-OTB	310 a	...
5 337A	337 a	...
6 502B	502B	...
7 655A-OTB	655 a	...
8 842A	842A	...

語彙制御レジストリページ

このページで次のアクションを実行できます。

- 語彙制御の詳細を表示する (行のアクションリストから [表示] を選択します)
- 語彙制御の追加 ([語彙制御の追加/編集](#)を参照)
- 語彙制御コード値の追加または削除 ([語彙制御の追加/編集](#)を参照)
- 事前定義済みの語彙制御を復元します (行アクションリストから [復元] を選択します)
- 追加した語彙制御を削除します (行アクションリストから [削除] を選択します)

語彙制御を追加/編集します

語彙制御を追加または編集できます。

語彙制御を追加するには

1. [語彙制御レジストリ] ページで ([設定メニュー>リソース>目録>語彙制御レジストリ])、[語彙制御を追加] を選択します。[語彙制御詳細] ページが開きます。
2. 名称と説明を入力します。

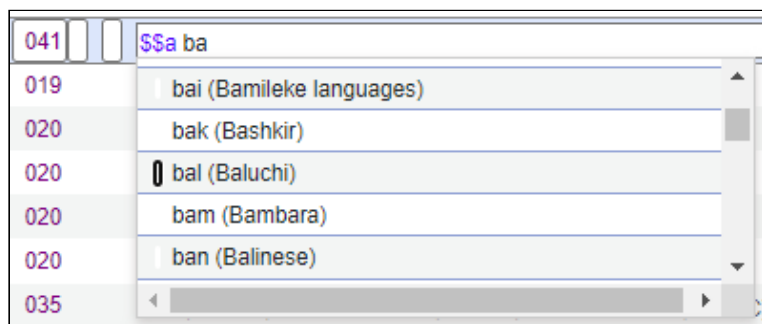
この名前と説明は、メタデータ設定プロファイルのMARC 21サブフィールドに語彙制御を割り当てると、[語彙制御レジストリ] ページと [語彙制御の選択] のオプションのドロップダウンリストに表示されます。上記の[フィールドの編集](#)のステップ4を参照してください。語彙制御をMARC 21サブフィールドに割り当てた後でのみ、以下のステップ4に示すように、この単語をMDエディタで使用できることに注意してください。

Note

統制語彙に100を超える値がある場合、メタデータエディタのドロップダウンには、入力を開始するまで最初の100件のみが表示されます。

3. 語彙制御名を少なくとも1つ追加したら、[保存]を選択して、説明への変更を保存します。
4. [新しい値の追加]領域で、コードと説明を入力します。コードにはスペースまたは特殊文字を含めることができますが、サブフィールドの区切り文字を含めることはできません。

入力するコードは、MDエディタでレコードを入力するときに、検証またはオプションとして提供される用語です。



制御語彙例

上記の例では、入力したコードは各行の最初に表示され、説明は各コードの右側の括弧内に表示されます。

CVレジストリに入力するコードの説明は、入力した用語に関する追加情報を提供できます。

5. [追加]を選択します。コード値は、語彙制御レジストリのリストに追加されます。
6. ステップ3と4を繰り返して、追加のコード値（用語）を追加します。
7. コードを削除する場合は、コード値の横にある[削除]を選択します。事前定義済みの語彙に元々含まれていたコード値を削除しようとする時、警告が表示されます。
8. [キャンセル]を選択して、[語彙制御レジストリ]ページに戻ります。

語彙制御を編集するには

1. [語彙制御レジストリ]ページ（[設定メニュー] > [リソース] > [目録] > [語彙制御レジストリ]）で、[アクション] > [設定]または[アクション] > [編集]を選択します。[語彙制御詳細]ページが開きます。
2. 上記の手順3から開始して、説明されている手順を続行します。

制御語彙リストのアップロード

制御語彙リストを一括で追加できます。

一括制御語彙リストを追加またはアップロードするには:

1. [語彙制御の詳細]ページで（[設定メニュー] > [リソース] > [目録] > [語彙制御レジストリ]）[語彙制御を追加]を選択します。

2. インポートを選択します。
3. .csv または Excel ファイルに移動します。
4. [確認] を選択してください。Alma はファイルを処理し、既存の管理語彙の内容をファイル内の新しいデータで置き換えます。

Note

ファイル形式が正しくないか、無効なエントリや重複したエントリが含まれている場合、Alma はインポートを再試行する前に有益なエラーメッセージを生成します。これは問題を特定して修正するのに役立ちます。

サポートされているファイル形式は次のとおりです。

	A	B
1	Code	Description
2		
3		
4		
5		

スプレッドシート形式

Note

インポートすることで既存の制御語彙の値が上書きされます。現在のエントリを保持するには、ユーザーはまずリストをエクスポートし、必要に応じて変更してから、更新されたファイルを再インポートすることができます。

語彙の制御レジストリの設定 - フォーム

語彙制御レジストリを設定するには、次のいずれかの役職が必要です。

- 目録管理者
- 統括システム管理者

フォームフィールドに使用できる値を定義できる語彙を設定できます ([フォームの操作](#)を参照)。

さらに、Excel シートから語彙の制御値をインポートすることもできます。詳細については、[コードテーブル情報のインポート](#)を参照してください。

語彙の制御を追加するには：

1. [語彙の制御レジストリ - フォーム] ページで ([設定メニュー] > [リソース] > [目録] > [語彙の制御レジストリ - フォーム])、[語彙の制御を追加する] を選択します。[語彙制御詳細] ページが開きます。
2. 名前と説明を入力します。この名前と説明は、フォームを設定する際の語彙のための [語彙の制御レジストリ - フォーム] ページおよびオプションのドロップダウンリストに表示されます。
3. 語彙の制御レジストリ - フォーム ページから、語彙を選択します。
4. 行を追加を選択します。
5. コードと説明を入力し、必要に応じてデフォルト値を選択します。このコードは、フィールドでユーザーにオプシ

ョンとして提供される用語です。

6. [行を追加する]を選択します。
7. 追加の行を追加して追加の値を語彙に追加します。

著者番号リストの設定

著者番号リストを設定するには、次のいずれかの役職が必要です。

- 目録管理者
- 統括システム管理者

著者番号（請求番号）を生成するには、著者番号リストを使用する必要があります。Almaは標準化された著者番号リストを提供します。[著者番号リスト]設定オプションを使用すると、要件に応じて1つ以上の著者番号リストを選択して著者番号を生成できます。詳細については、[標準著者番号リストの設定](#)を参照してください。

著者番号を生成するとき、システムはラテン語のテキストを使用して自動著者番号を見つけて生成します。Almaの著者番号ジェネレーターが使用するソーステキスト（100 \$aなどのコントロールフィールド内）が非ラテンテキストである場合、まず非ラテンテキストをラテンテキストに翻字する必要があります。デフォルトでは、システムは翻字にICU（Unicodeの国際コンポーネント）を使用します。ICUの翻字結果が要件を満たしていない場合は、ICUの翻字方法の代わりに使用する独自の翻字ファイルをカスタマイズできます。詳細については、[著者番号リスト生成のためにカスタマイズされた翻字の設定](#)を参照してください。

標準著者番号リストの設定

[著者番号リスト]設定オプションを使用して、1つ以上の標準化された著者番号リストを使用して、著者番号を自動的に生成できます。次の標準化された著者番号リストが利用可能です。

- cutting_three_figure_cn.txt
- cutting_three_figure_kor.txt
- lee_jai_chul_1.txt
- lee_jai_chul_2.txt
- lee_jai_chul_3.txt
- lee_jai_chul_4.txt
- lee_jai_chul_5.txt
- lee_jai_chul_6.txt
- lee_jai_chul_7.txt
- lee_jai_chul_8.txt

cutter_three_figure_cn.txtオプションには中国語の著者情報が含まれ、cutter_three_figure_kor.txtオプションには韓国語の著者情報が含まれています。

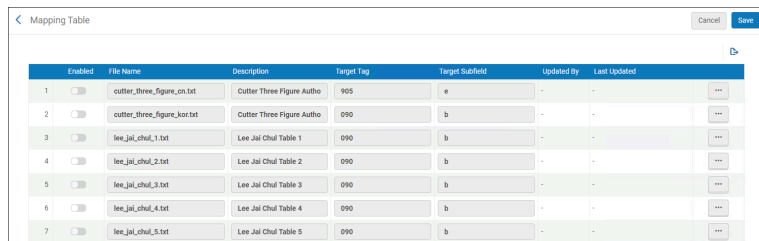
lee_jai_chul <1-8> .txtオプションには、韓国の著者番号を生成するためのLee Jai Chulメソッド（[Lee Jai Chul Method Logic](#)を参照）が含まれており、MARC 21またはKORMARCレコードで使用できます。[著者番号リスト]設定で、これらの1つ以上の.txtファイルを有効にすることができます。Lee Jai Chulメソッドのロジックの一部として、韓国で最も多い姓のリストはEx Librisによって管理されており、次の姓が含まれています：?, ?, ?, ?, ?, ?, ?, ?, ?。

この機能の設定については、以下の手順を参照してください。

著者番号リストマッピング表を設定した後に、MDエディタでローカル請求番号フィールドの著者番号を自動的に生成できます（〔編集>著者番号の生成〕を使用）。詳細については、[KORMARC書誌レコードの090ローカル請求番号フィールドの著者番号の自動生成](#)および[著者番号の自動生成](#)を参照してください。

著者番号リストマッピング表を設定するには

1. 著者番号リストマッピング表（〔設定メニュー>リソース>目録>著者番号リスト〕）で、使用する著者番号マッピング表を含む行で、〔カスタマイズ〕アクションを選択します。マッピングテーブルの詳細については、[マッピングテーブル](#)を参照してください。



Enabled	File Name	Description	Target Flag	Target Subfield	Updated By	Last Updated
1	cutter_three_figure_on.txt	Cutter Three Figure Autho	905	a	-	-
2	cutter_three_figure_kor.txt	Cutter Three Figure Autho	090	b	-	-
3	lee_jai_chul_1.txt	Lee Jai Chul Table 1	090	b	-	-
4	lee_jai_chul_2.txt	Lee Jai Chul Table 2	090	b	-	-
5	lee_jai_chul_3.txt	Lee Jai Chul Table 3	090	b	-	-
6	lee_jai_chul_4.txt	Lee Jai Chul Table 4	090	b	-	-
7	lee_jai_chul_5.txt	Lee Jai Chul Table 5	090	b	-	-

著者番号リストマッピング表ページ

2. ターゲットタグとターゲットサブフィールドオプションが要件に合わせてカスタマイズされていることを確認します。必要に応じて変更を加えます。
3. [保存]を選択してください。

Lee Jai Chul メソッドロジック

Lee Jai Chulメソッドは、次のロジックを使用してAlmaで実装されています。

- 韓国語の著者名は、カーソルが置かれているフィールドに存在すると想定されます。このフィールドに名前が見つからない場合、著者番号は生成されません。
- 著者名の最初のハングル文字が保存され、ハングルの子音と母音のテーブルを使用して、著者名の2番目のハングル文字がハングル・ジャモ文字に分解されます（ㄷ > ㄷ ㅏ など、ハングルごとに2つまたは3つのジャモ文字）。著者名の最初の文字が最も人気のある姓の1つである場合、最初のJamo（子音）と2番目のJamo（母音）のマッピング表のコードが連結されます。それ以外の場合、コードは最初のJamoのマッピング表から取得されます。
- 生成された著者番号は、前の箇条書きで説明した最初と2番目のハングル文字の操作の結果である文字列です。この文字列は、〔著者番号リスト〕設定で識別されるフィールド/サブフィールドに配置されます。
- 著者番号は、生成後に目録者によって変更される場合があります。
- （著者の姓の） Lee Jai Chulメソッドに対してEx Librisによって設定されたパラメーターにアスタリスク（*）が含まれている場合、すべての名前が最も人気があると見なされます。

このロジックには次の例外があります。

- Lee Jai Chulメソッドの5番目、6番目、または8番目の表が使用され、最初のJamoがㄷである場合、2番目のJamoは、最初の文字が最も人気のある姓の1つであってもコーディングされます。たとえば、5番目のテーブルを使用する場合、추경석 > 추14（「추1」ではありません）。
- 最初のJamoの数値コードが2桁の場合、2番目のコードにコードを割り当てる必要はありません。たとえば、2番目のテーブルを使用する場合、정필모 > 정84。
- 著者名がコンマで区切られている場合、コンマとその後のスペースは生成された著者番号にコピーされます。たとえば、5番目のテーブルを使用する場合、맨, 마가레트 > 맨, 3。

- 保存プロセスの検証でユーザー定義の請求番号区別タスクが設定されている場合（[保存時のMARC 21所蔵の検証](#)を参照）、リポジトリ全体で同一の著者番号に対して重複チェックが実行されます。重複が見つかった場合、システムは目録者にメッセージを表示します。
- 一部のテーブルには、依存関係があり、考慮に入れます。たとえば、3番目のテーブルを使用する場合
 - 3v卜-ㄱㄷㅌ1

つまり、最初のJamoの値がㄱ、ㄷ、またはㅌでない場合、2番目のJamo卜のコードは1になります。
 - 3v卜ㄱㄷ3

つまり、最初のJamoの値がㄱまたはㄷの場合、2番目のJamo卜のコードは3になります。

著者番号リスト生成のための翻字のカスタマイズ設定

ICUのデフォルトの翻字方法（[著者番号リストの設定](#)を参照）が要件に対応していない場合、著者番号リスト生成プロセスの一部として使用するカスタム翻字ファイルを設定できます。カスタム文字変換ファイルには、タブで区切られた次の3つの列が含まれている必要があります。

- ハングル（16進コードポイント）
- ローマ字ハングル
- 文字の説明

カスタムファイルの部分的な例については、以下を参照してください。この例では、Almaが最初の2つの列をカスタム翻字に使用しています。3列目は、各行の最初の2列のコンテンツのユーザーによりわかりやすい参考情報を提供します。

```

=====
! tab_cutter_three_normal
=====
! Normalization mapping table
! For Cutter-Three scheme
! COL 1. 4; Hangul in Hexadecimal code points
! COL 2. 15; Romanized Hangul;
! COL 3. 25; TEXT; Description of the character;
!           Must begin with #;
!!!!-!!!!-!!!!-!!!!-!!!!-!!!!-!!!!-!!!!
AC00 ga          # 가 to ga
AC01 gag         # 각 to gag
AC04 gan         # 간 to gan
AC07 gad         # 갈 to gad
AC08 gal         # 갈 to gal
AC10 gam         # 감 to gam
AC11 gab         # 갑 to gab
AC13 gas         # 갓 to gas
AC15 gang        # 강 to gang
AC16 gaj        # 갯 to gaj
  
```

著者番号生成用のカスタム翻字ファイル

Almaでカスタム翻字ファイルを設定するには

- 〔著者番号生成〕の〔ローカル翻字表設定オプション〕を選択します（〔設定メニュー>リソース>目録>著者番号生成のローカル翻字表〕）。local_transliteration_author_number.txtページが表示されます。

local_transliteration_author_number.txtページ

2. [コンテンツ] 用に用意されたスペースにカスタム翻字変換ファイルをコピーして貼り付けます。
3. [保存]を選択してください。

Note

後にカスタム翻字を使用しないことを選択した場合は、コンテンツフィールドに感嘆符 (!) を1つ入力するだけです。コンテンツフィールドを空白フィールドとして保存することはできません。

メタデータのインポートによって作成された新しいレコードに適用されるデフォルトの目録レベル

入力ファイルから新しいレコードが作成される時は常に、このレコードの目録レベルがデフォルトの目録レベル、またはデフォルトが定義されていない場合は「00」レベルになります。

Note

「目録者権限レベル」設定でデフォルト値を設定することをお勧めします。詳細については、[目録権限](#)を参照してください。

外部管理典拠への投稿のための目録レベルの設定

GNDやBAREなどの外部管理システムの典拠レコードをMDエディタで編集できます。[外部の典拠レコードの目録化](#)を参照してください。投稿の目録レベルを設定するには、外部システムからコミュニティゾーンへの典拠の投稿を許可するように、所属機関に対しEx Librisサポートが設定する必要があります。さらに、Almaの目録レベルで機能するように所属機関を設定する必要があります ([目録権限](#)を参照)。

各外部システムは、事前定義されたフィールドにレコードの目録レベルを保存します。Almaの目録者の許可レベルを外部システムの目録レベルに合わせるには、外部機関の目録レベルマッピング表を使用します ([設定メニュー > リソース > 目録 > 外部機関の目録レベルマッピング])。

Note

このオプションは、a) ネットワークゾーンまたはネットワークゾーンを実装していない独立型機関でのみ、b) 所属の機関がコミュニティゾーンに典拠レコードを提供できるようになっている場合にのみ使用できます。

作成する [外部機関の目録レベルマッピング] 設定は、投稿のために外部管理典拠レコードを作成および編集する際に、MDエディタでAlma目録作成許可レベルと外部目録レベル間のマッピングを検証する方法を識別します。

以下は、GNDの例です。

LDR		00826nc##a2200241g##450c
001		983656340200041
005		20140723194112.0
008		140709n aznbnabbn##### ###c
024	7	\$\$a http://d-nb.info/gnd/1053439210 \$\$2 uri
035		\$\$a (DE-101)1053439210
035		\$\$a (DE-588)1053439210
035		\$\$a (DE-101)1053439210
040		\$\$a DE-3 \$\$9 r:DE-601 \$\$b ger \$\$d 1210 \$\$e rakwb \$\$f rswk
043		\$\$c XA-DE
065		\$\$a 3.6n \$\$2 sswd
079		\$\$a g \$\$b p \$\$c 6 \$\$q f \$\$v piz
100	1	\$\$a Fischer, Ludwig \$\$d 1810-1839
510	2	\$\$a gnd/4415203-6 \$\$9 4:affi \$\$w r \$\$i Affiliation \$\$e Affiliation
548		\$\$a 1810-1839 \$\$9 4:datl \$\$w r \$\$i Lebensdaten
550		\$\$0 (DE-101)040597563 \$\$0 (DE-588)4059756-8 \$\$a Theologe \$\$9 4:berc \$\$w r \$\$i Charakteristischer Beruf
551		\$\$a Seiffen \$\$9 4:ortg \$\$w r \$\$i Geburtsort
670		\$\$a WBIS
678		\$\$b Katechet, Mitarb. am Brockhausschen Repertorium, geb. in (Bad) Einsiedel

079 \$c GND典拠レコード

外部典?に投稿する際の目?レベルマッピングを設定するには

1. 目録者レベルから単語コードへのマッピング表（〔設定メニュー>リソース〕>〔目録〕>〔外部権限に対する目録レベルマッピング〕）で、〔行の追加〕を選択して、Alma目録レベルを外部システムの目録レベルにマッピングします。
 1. Alma目録レベルのいずれかを選択します。目録レベルは、目録者のアクセス許可レベルの設定によって決まります。詳細については、[目録権限](#)を参照してください。
 2. 外部システムの目録レベルのいずれかを入力して、選択したAlma目録レベルにマッピングします。
 3. **True**または**False**を選択して、レベルに対して作成しているマッピングがデフォルトであるかどうかを示します。マッピングテーブルでは多対多の関係を指定できるため、どちらがデフォルトのマッピングであるかを示す必要があります。
 4. 関連する単語を選択します。

Note

現在のオプションは、GND、BARE、およびNLIです。

5. 〔行の追加〕を選択します。

マッピングを変更する必要がある場合は、変更するマッピングの〔削除〕アクションを選択し、新しいマッピングを作成します。

2. 設定の変更が完了したら、〔保存〕または〔保存して配分〕を選択します。ネットワーク管理の停止の説明など、詳細については、[設定表の一元管理](#)を参照してください。

MDエディタでは、外部機関の目録レベルマッピングを設定することにより、目録者が特定の典拠レコードの編集に必要なAlma目録レベルを持っているかどうかを判断できます。目録者に典拠レコードを正常に投稿するのに十分な権限がない可能性があることをAlmaが検知すると、Almaは確認ダイアログボックスを表示します。

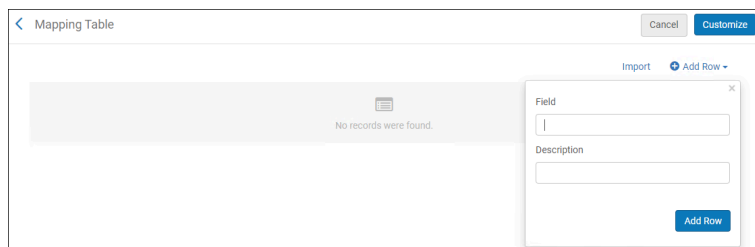
投稿したレコードを受け入れるか拒否するかは外部システムによって制御されるため、Almaはその決定を外部システムに任せ、目録者の権限が不十分であることを検知した場合でも、ユーザーは典拠レコードを編集することができます。したがって、Almaで典拠レコードを編集できても、投稿が許可されることを保証するものではありません。

CNMARC 6XXフィールドに対する複数のアクセスポイントの設定

複数のアクセスポイントが必要なCNMARC 6XXフィールドを識別するには、[CNMARC 6XXカテゴリ設定] オプションを使用します。詳細については、[CNMARC 6XXフィールドでの複数のアクセスポイントの使用](#)を参照してください。

CNMARC 6XX標目コントロールフィールドを設定するには

1. [リソース管理] 設定の[目録] セクションで[複数のCNMARC 6XX標目の設定] を選択します（[設定メニュー > リソース > 目録 > 複数のCNMARC 6XX標目の設定]）。CNMARC 6XXカテゴリマッピング表が表示されます。マッピングテーブルの詳細については、[マッピングテーブル](#)を参照してください。
2. [行の追加] を選択して、6XXフィールドとその説明を入力し、セグメント化する6XXフィールドの[行の追加] を選択します。



The screenshot shows a 'Mapping Table' interface with a table that is currently empty, displaying 'No records were found.' A modal dialog box titled 'Add Row' is open, allowing the user to input a 'Field' and a 'Description' before clicking the 'Add Row' button.

CNMARC 6XXフィールドが追加されました

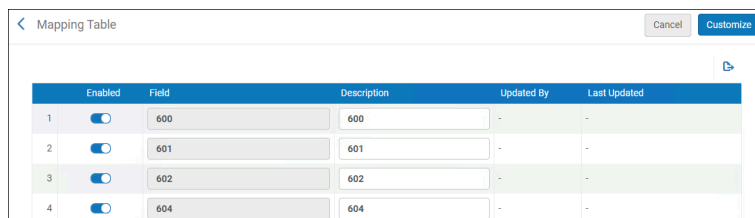
3. CNMARC 6XXカテゴリマッピング表に追加するすべての6XXフィールドについて、手順2を繰り返します。
4. 6XXフィールドの追加が終了したら、[カスタマイズ] を選択します。

UNIMARCに対する複数のアクセスポイントの設定

[複数のUNIMARC典拠ID] 設定オプションを使用して、UNIMARC 600-602および604-607フィールドに複数のアクセスポイントを持たせるようカスタマイズします。詳細については、[複数のUNIMARCアクセスポイントの使用](#)を参照してください。

複数のUNIMARC典拠ID設定オプションをカスタマイズするには

1. [リソース管理] 設定の目録セクションで[複数のUNIMARC典拠ID設定] を選択します（[設定メニュー > リソース > 目録 > 複数のUNIMARC典拠ID設定]）。複数の典拠レコードによって制御されるUNIMARC 6XXフィールドのリストが表示されます。マッピングテーブルの詳細については、[マッピングテーブル](#)を参照してください。



The screenshot shows a 'Mapping Table' interface with a table containing 4 rows of data. Each row has columns for 'Enabled', 'Field', 'Description', 'Updated By', and 'Last Updated'. The 'Enabled' column contains toggle switches, all of which are turned on.

	Enabled	Field	Description	Updated By	Last Updated
1	<input checked="" type="checkbox"/>	600	600	-	-
2	<input checked="" type="checkbox"/>	601	601	-	-
3	<input checked="" type="checkbox"/>	602	602	-	-
4	<input checked="" type="checkbox"/>	604	604	-	-

UNIMARC 6XXフィールド

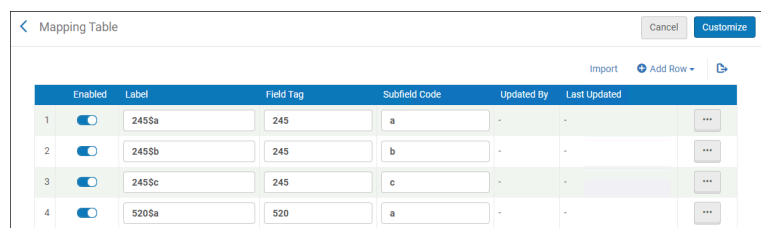
2. 複数の典拠の識別に使用する6XXフィールドを有効化または無効化し、好みに合わせて説明フィールドを変更しま

す。

3. 終了したら、[カスタマイズ] を選択します。

MARCスリム設定

MARCフィールドを、フォームの作成に使用するラベルにマッピングできます。MARCフィールドをラベルにマッピングするには、MARC21スリムマッピング表を開きます（[設定メニュー] > [リソース] > [目録] > **MARCスリム設定**）。マッピングテーブルの詳細については、[マッピングテーブル](#)を参照してください。



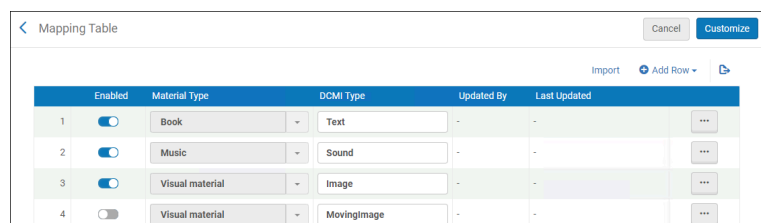
Enabled	Label	Field Tag	Subfield Code	Updated By	Last Updated	
<input checked="" type="checkbox"/>	245\$a	245	a	-	-	...
<input checked="" type="checkbox"/>	245\$b	245	b	-	-	...
<input checked="" type="checkbox"/>	245\$c	245	c	-	-	...
<input checked="" type="checkbox"/>	520\$a	520	a	-	-	...

MARCスリム設定

ラベル、MARCフィールドタグ、およびマッピングするMARCフィールドのMARCサブフィールドコードを入力します。マッピングされたMARCフィールドのラベルは、フォームで使用できます。詳細については、[フォームの操作](#)を参照してください。

DCMI資料タイプマッピング

dc : typeおよびdcterms : typeフィールドで、Alma資料タイプをDCMIタイプにマップできます。これを行うには、[設定メニュー] > [リソース] > [目録] > **DCMI資料タイプマッピング**でDCMI資料タイプマッピング表を開きます。マッピングテーブルの詳細については、[マッピングテーブル](#)を参照してください。



Enabled	Material Type	DCMI Type	Updated By	Last Updated	
<input checked="" type="checkbox"/>	Book	Text	-	-	...
<input checked="" type="checkbox"/>	Music	Sound	-	-	...
<input checked="" type="checkbox"/>	Visual material	Image	-	-	...
<input type="checkbox"/>	Visual material	MovingImage	-	-	...

資料タイプマッピング